

令和5年度  
年 報

市立大町山岳博物館

# 目 次

	頁
令和 5（2023）年度の活動から	1
I 資料収集・保存管理事業	4
1 資料収集	4
2 資料保存管理	4
II 調査研究事業	6
1 調査研究	6
III 教育普及事業	7
1 展示	7
2 教育普及活動	11
3 執筆・出版	18
4 広報・宣伝	19
5 大町博物館連絡会	21
6 安曇野アートライン推進協議会 美術館・博物館部会	21
7 大町山岳博物館友の会	21
8 ライチョウ会議	24
9 長野県山岳総合センターとの連携事業	24
IV 動植物飼育栽培繁殖事業	25
1 動物飼育繁殖	25
2 植物栽培繁殖	27
3 付属園整備	27
4 公益社団法人日本動物園水族館協会	28
V その他	28
1 各種委員等の委嘱他	28
2 アルプス動物園との友好提携協定の締結	29
3 信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結	29
4 長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結	29
5 ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結	29
6 梅棹忠夫 山と探検文学賞への協力	29
VI 運営	30
1 組織および職員構成	30
2 市立大町山岳博物館協議会	31
3 入館者状況	32
4 令和 5 年度予算・決算	34
5 ミュージアムカフェ・ショップ	34
VII 関係条例規則等	36
1 市立大町山岳博物館条例	36
2 市立大町山岳博物館規則	38
3 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱	43
VIII 市立大町山岳博物館の使命	44
1 市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に	44
2 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念	44
3 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本方針	45
IX 施設	47
1 敷地面積	47
2 本館建物	47
3 付属施設	48
X 利用案内	49

# 令和 5（2023）年度の活動から

名誉館長 鈴木 啓助

令和 5(2023)年の大型連休後の 5 月 8 日から、コロナウイルス感染症は 5 類感染症に移行しました。令和 5 年度は、新型コロナウイルスの感染者が国内で初めて確認された 2020 年 1 月 15 日から続いたコロナ禍が明けて初めての年度となりました。2022 年度の入館者数は 21,307 人となり、2014 年度以来 8 年ぶりに 2 万人を超えました。2023 年度はさらに入館者が増加するのではと期待されましたが、前年度比 2.6%減の 20,760 人という結果になりました。

4 月 23 日には、当館主催の博物館友の会総会の記念講演会として、三郷昆虫クラブ世話人の那須野雅好氏をお迎えして、「虫の眼で見た大町・安曇野の自然」と題し講演をいただきました。多くの皆様とともに、身近に見られる多様な昆虫についてお話しを伺い、その保全の必要性を痛感しました。

大型連休初日の 4 月 29 日から 7 月 30 日まで企画展「ホネ」展を開催しました。動物担当学芸員を中心に準備し、当館で収蔵している動物の骨格標本などにより、骨の役割や進化の過程で生じた共通点や相違点など骨の魅力を解説しました。7 月 15 日にはミュージアムガイドを開催し、30 人の皆様に参加いただきました。

5 月 2 日から 6 日まで、恒例の「付属園まつり」を開催しました。この中で「動物観察ツアー」や「おまびよんと遊ぼう」などは、多くの皆様に楽しんでいただきました。また、ライチョウガイドやクイズラリーでは友の会会員の皆様に大変お世話になりました。多くの来館者に参加いただく行事では、職員だけでは対応が難しく、このため友の会会員の皆様のお力添えが不可欠となっており、付属園まつりでも毎年ご協力いただいておりますことに、あらためて感謝申し上げます。

5 月 13 日には、山岳総合センターと共催でバードウォッチング「鷹狩山で鳥さん見つけ！」を開催しました。野鳥が活動を始める早朝から開始し、今回は 24 種類の鳥の観察や鳴き声を聞くことができました。

5 月 20 日には、松本山雅後援会の皆様にご協力いただき、ライチョウのエサとなるナラの葉を採集しました。当館で飼育しているライチョウは、ナラの葉を使用した特製の配合飼料を食べています。それに必要な 1 年分のナラの葉を採集するために、千年の森自然学校、池田町の PolarisAct、ぐるったネットワーク大町の皆様のご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

6 月 18 日には、大町自然探検隊の一環で「鷹狩山でササユリを観察しよう」を開催しました。植物担当学芸員が、鷹狩山への道中でササユリを観察しながら研究成果を解説しました。

7 月 27 日には、長野県山岳総合センターと共催で「わくわくチャレンジ教室 夜の虫を観察しよう」を開催しました。動物担当学芸員による座学に引き続き、小学生の皆さんが大町公園周辺で夏の夜の昆虫採集を体験しました。また、8 月 1 日には、県環境保全研究所との共催で「みんなで温暖化ウォッチセミの抜け殻を探せ！」を開催しました。毎年恒例の行事となっており、大町公園でセミの抜け殻を集めて種類を同定し集計することで、年ごとの変動を明らかにしようとしています。これら二つの行事は、参加した小学生にとって夏休みの自由研究の題材になったことと思います。

当館は、学芸員の資格取得に必要な博物館実習の受け入れ機関となっています。本年は 7 月 30 日から 8 月 4 日までの 6 日間に 4 名の大学生を対象とした実習を行いました。当館職員全員が分担して、調査・研究、収集・保管、教育普及・展示について指導を行いました。実習に参加された学生が、将来何れかの博物館などで学芸員として活躍されることを期待しています。

8 月 23 日には、ホンダタヌキの「おしお」を付属園の仲間として迎え入れました。当館の付属園では大町市周辺で生息する動植物の生体展示を行い、本館での形体展示と連動して大町の自然を紹介することを心がけています。付属園リニューアルの際には、大町市周辺の動植物を網羅できるようにしたいと

準備しています

9月2日には、博物館友の会創立45周年記念行事の記念講演会として、大町市出身で登山家の三戸呂拓也氏をお迎えし、「山が教えてくれたこと」と題し講演をいただきました。また、翌3日には記念行事における記念登山として、講演をいただいた三戸呂氏と一緒に山のぼりを楽しむ「三戸呂拓也と行くフィールドゼミナール―鷹狩山トレッキング―」を催行しました。講演会には多くの方に参加をいただいたほか、日本を代表する登山家と接する機会を創出することができたと考えております。

9月18日には、大町自然探検隊の一環で「水辺の生き物を観察しよう」を開催しました。木崎湖の水辺に棲む様々な生き物を観察することができました。木崎湖には在来種の珍しい貝が棲息していますが、その数が減少していると言われていています。その保全についてもこれからの課題となることを再認識する行事となりました。

日本アルプスを世界に紹介したことで知られているウォルター・ウェストンの登山を幾度も案内したのが上條嘉門次です。ウェストンが帰国する際に嘉門次に贈ったとされているピッケルと、優秀な猟師である嘉門次が使用した猟銃が、上高地明神池ほとりの嘉門次小屋の囲炉裏の間に飾られていました。この猟銃とピッケルの他に熊槍など嘉門次ゆかりの品々8点を、9月30日に嘉門次小屋様から当館に寄贈いただきました。日本における近代登山の黎明期における貴重な資料として、当館1階の「日本の近代登山の幕明け」コーナーに常設展示させていただいています。

10月7日から22日まで特別展「出張安曇野アートライン展 in 山岳博物館～水・木・土・空～」を開催しました。当館では、山岳画を始めとする多くの美術品も収蔵・展示していますが、今回は、安曇野アートライン加盟館から、北アルプス国際芸術祭2024のコンセプトに合致する選りすぐりの作品を集めて展示しました。

10月22日には、大町自然探検隊の一環で「河原の石ころをさがそう」を開催しました。箆川下流の河原で様々な岩石を収集しながら、北アルプスの成り立ちを考える親子対象の行事です。石ころ拾いは時間を忘れてつい夢中になってしまうもので、参加した皆さんも例外ではありませんでした。

11月3日から1月28日まで企画展「大町と絶滅動物」を開催しました。ニホンオオカミの頭骨、ニホンカワウソの剥製、トキの剥製などの貴重な資料を展示することにより、大町地域で見られなくなった動物や、絶滅が危惧される動物を紹介しました。期間中の3日間にわたり動物担当学芸員によるミュージアムガイドを行うとともに、11月11日には、ニホンオオカミを探す会代表の八木博氏による講演会「ニホンオオカミを探し続けて50年」を開催しました。ニホンオオカミは、明治末頃に国内で絶滅したと考えられていますが、同種とみられる動物の目撃情報は全国で続いています。八木氏は50年にわたり秩父の山中を中心にニホンオオカミを探し求め、現在まで活動を続けています。「秩父野犬」と称されるニホンオオカミとおぼしき動物との遭遇など長年にわたる豊富な体験を紹介いただきました。

11月19日には、大町自然探検隊の一環で「星空観察教室」を開催しました。山博友の会の丸山さんに講師をお願いし、好天の中で天体望遠鏡により月のクレーターや土星の輪をじっくりと観察することができました。また、街明かりが動物に及ぼす影響などについて動物担当学芸員が解説を行いました。

1月20日には、大町自然探検隊の一環で「バードウォッチング in 仁科三湖」を開催しました。今回は水辺の野鳥を観察するために、寒空のもと木崎湖周辺で行いました。カモの仲間を始めとする26種の冬鳥を観察することができました。

当館のライチョウは、高齢や血縁の近い個体が多くなり、繁殖が難しくなっていましたので、1月から2月にかけて、山博から3羽を他園館に搬出し、新たに3羽（ニホンライチョウ2羽、スバルバルライチョウ1羽）を他園館から搬入しました。この中のニホンライチョウ2羽が山博にいたライチョウとペアを組み、2024年度に繁殖を行う予定です。

入館者が夏季に比べて冬季には減少することを克服する試みのひとつとして、2020年度から年度末に「山のサイエンスカフェ」を開催しています。これは、日頃から調査研究に打ち込んでいる学芸員や

専門員が、その成果を発表する場でもあります。今年度は、3月3日と10日に開催しました。

資料収集・保存管理事業としては、寄贈による収集資料が動物資料2件22点、植物資料4件393点、山岳資料3件21点、美術資料1件2点、山岳図書資料8件99点であり、収蔵数は、自然科学系資料が22,144点、人文科学系資料が13,726点、図書資料が46,466点となりました。

調査研究事業としては、高山植物の生活史に関する研究、ライチョウの飼育・増殖技術確立を目指した研究や地質学に関する調査などを行い、成果については展示や研究紀要論文として発表しました。今年度の研究紀要には、原著論文1編、報告2編、短報3編を収録しました。出版事業としては、研究紀要の他に季刊の広報誌「山と博物館」を発行し、市内全戸に配布しました。

教育普及活動の一環として、市内の小中学校をはじめとする学校で、学芸員等が連携授業・実習等を16回担当しました。教育委員会所管の博物館として、小中学校との連携は重要な役割であると認識していますので、今後とも充実した企画を提供していきたいと考えています。

年末年始明けの1月4日朝、当館地階の暖房用ボイラーが不完全燃焼により火災となりました。このボイラーはすでに耐久年数を超過し交換部品も廃番となるなか、これまでなんとか運転を続けてきましたが、今回の事故により使用ができない状況となりました。翌日からは他部局からストーブを借用し対応しましたが、展示室を十分暖めるまでに至らず、来館者の皆様にご不便をおかけすることとなりました。今後早期に空調設備の改修に着手できるよう、対応を進めてまいります。

令和5年度は、職員による不適切な会計処理の問題が明らかとなりました。調査の結果、同一職員によって過去にさかのぼり計5件の不適切な会計処理が行われた事実が確認されました。このような行為はコンプライアンスの観点から許されるものでないことは言うまでもありませんが、一職員に事務処理を任せきりにするのではなく、組織として適正な取り扱いを担保するために日頃から職員全体で相互に事務処理内容を確認する必要があると考えております。市民の皆様の信頼を取り戻すことができるよう、これを機に職員一同気を引き締め業務にあたってまいります。この件を受けて当館の事務体制が見直されることとなり、事務担当職員が2名配置されることとなりました。このうち、公金支出手続きにおける決裁権者としての館長職は、新たに事務系の課長職が担当することとされ、これを受けて当職は、2024年4月から事務的業務を離れ学芸分野に注力することになりました。引き続き精一杯務めますので、今後ともよろしく願いいたします。

博物館友の会の皆様には、今年度も山岳博物館の事業で多方面からご支援をいただきましたことあらためて感謝いたします。

以上、2023年度に実施しました山岳博物館の主な事業についてご報告させて頂きました。当館の事業の実施にあたりましては、大町市民の皆様をはじめ、友の会の皆様、その他関係機関の皆様大変お世話になりました。末筆ながら深く御礼を申し上げるとともに、引き続き当館の活動と運営に更なるご理解とご支援、ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

# I 資料収集・保存管理事業

## 1 資料収集

### (1) 新規収集資料

令和5年4月1日から令和6年3月31日の間に寄贈によって次の資料を収蔵した。

#### ① 寄贈による収集資料

内訳は、自然科学系：動物資料2件22点、植物資料4件440点、人文科学系：山岳資料3件21点、美術資料1件2点、山岳図書資料8件99点である。

No.	受入日	資料名	数量	寄贈者	住所
	6月2日	山岳資料(上條嘉門次関連資料)8点及び山岳図書(A WAYFARER IN UNFAMILIAR JAPAN 他)10点	18点	有限会社嘉門次小屋	長野県松本市
	9月2日	鳥類剥製・哺乳類剥製	6点	個人	長野県大町市
	10月11日	山岳図書資料(山書有情 他)	24点	個人	東京都板橋区
	11月6日	山岳図書資料(深田久弥の日本百名山花ガイド 他)25点及び山岳資料(バッジ 他)11点	36点	個人	神奈川県横浜市
	11月7日	山岳図書資料(日本山岳会会報 他)5点及び山岳資料(ピッケル 他)2点	27点	個人	東京都小金井市
	11月15日	山岳図書資料(パンフレット国立公園白馬連峯 他)	3点	個人	東京都西東京市
	12月7日	山岳図書資料(名山スケッチ漫筆 他)	27点	個人	茨城県つくば市
	12月15日	鳥の羽根	16点	個人	長野県安曇野市
	12月17日	山岳図書資料(事故報告書1981.10.11前穂北尾根 他)	5点	個人	長野県上田市
	1月13日	山岳図書資料(東部ヒマラヤの植物写真集 他)	4点	個人	茨城県水戸市
	2月15日	美術資料(畦地梅太郎作木版画)	2点	個人	東京都小金井市
	2月20日	植物さく葉標本	15点	個人	長野県高山村
	2月20日	植物さく葉標本	420点	個人	長野県松本市
	2月20日	植物さく葉標本	4点	個人	長野県松本市
	2月20日	植物さく葉標本	1点	個人	長野県茅野市

#### ② 交換による収集資料

令和5年12月14日に、牧野植物園より200点が到着。このうち、100点は安曇野市立郷土博物館で保管。残りの100点について山岳博物館で保管。2月末までに登録・配架を行った。

## 2 資料保存管理

### (1) 収蔵資料

#### ① 自然科学系資料

分類名および点数		自然科学系 合計 22,144点・197ケース	
蘚苔類(乾燥標本)	674点	哺乳類(剥製・骨格標本)	249点
維管束植物(液浸標本)	7点	鳥類(剥製・骨格標本)	699点
維管束植物(さく葉標本)	12,300点	昆虫(標本ドイツ箱)	258点
魚類(液浸標本等)	72点	昆虫(未標本作製資料を含む)	4,600点
両生爬虫類(液浸標本等)	72点	昆虫(液浸標本)	27点

貝・甲殻類（液浸標本）	13 点	その他液浸標本（調査研究資料）	103 点
		岩石、鉱物・鉱石、化石等（地質標本）	3,070 点 197 ケース

## ②人文科学系資料

分類名および点数		人文科学系	合計 13,726 点
山岳	11,896 点	寄託（山岳、美術）	409 点
民俗	959 点	（寄託内訳） 個人寄託 160 点※ ※うちピッケル関係 93 点	
美術	249 点		
美術（尾竹正躬関係）	201 点		
歴史	12 点	団体寄託 249 点	

## ③本館図書室に収蔵されている自然科学系図書資料

分類名および点数		自然科学系	合計 7,014 点
自然科学系一般図書資料	6,793 点	自然科学系一般A V資料	221 点

## ④山岳図書資料館に収蔵されている人文科学系図書資料

分類名および点数		人文科学系	合計 39,452 点
人文科学系一般図書資料	29,804 点	人文科学系一般A V資料	285 点
山岳資料としての図書資料（注 <sup>1</sup> ）	9,363 点		

（注<sup>1</sup>）④記載の山岳資料としての図書資料点数は、②記載の人文科学系の山岳資料点数に含む。

## ⑤収蔵資料の点数

総計 82,336 点・197 ケース（令和6年3月31日現在）

## ⑥現状と課題

### a. 自然科学系

植物さく標本については、大町山岳博物館友の会サークル「花めぐり紀行」のメンバーに台紙へのマウント作業を依頼し、約 500 点の登録および配架が完了した。あわせてミュージアムネット（S-net）に情報提供を行った。

### b. 人文科学系

昭和 26 年の開館以降の未整理の山岳資料（二次資料や文献資料も含む）及び民俗資料が多数あり、また、現在も年間を通じて新規の寄贈を受けており、毎年継続的に相当量の資料整理・登録作業の必要性が生じている。担当学芸員と事務員を兼務する資料整理員によって通年での作業を随時継続実施しているが、新規受入資料や過去の未整理資料の量に対し、整理作業が追い付いていない状況にある。登録博物館として博物館法に定める事業を実施していく中で、資料収集・保管は基礎的な事業に位置づけられており、博物館活動を行う上で、資料整理・登録業務は常時継続的に実施していくことが求められる。今後も引き続き、年度ごとに計画的・効率的に集中して整理作業を完遂させたい。

増加傾向にある寄贈の打診時に、受入の可否を客観的に判断できるひとつの根拠資料とすべく、資料収集に関して、資料受入に関する一定の基準をもうけた内規の作成を検討する必要がある。

なお、山岳博物館では、これまで収蔵資料の目録が整備されていない状況であったため、平成 26 年度以降、人文科学系の収蔵資料目録を作成、当館公式ホームページ上で一般公開を行っている。公開する目録については PDF データとし、ホームページ制作委託業者によるメンテナンスにあわせて、最新のデータに毎年更新を行っている。今後は収蔵資料に関する情報公開をさらに進めるため、資料整理の徹底実施を図りたい。

資料整理と収蔵資料に関する情報公開に関し、将来的な課題として、当館収蔵資料（全分野）のほか、市文化財センターの収蔵資料（考古・歴史・民俗資料）と生涯学習課で管理する美術資料を含め、市教委が保管する市所有の各種資料の一括管理について、専門業者が手掛ける博物館・美術館収蔵資料の情報処理システム導入（目録の記録内容のテキストデータや収蔵資料の記録写真の画像データの公開も含め）の必要・有効性や効率性などを関係課・係と協議・研究する必要がある。

## (2) 保存管理

資料の保存にあたっては、これまでと同様に、忌避剤やフェロモントラップを定期的に入れ替え、害虫の進入を予防する防虫対策を行い、人文科学系においては、夏期に収蔵庫内の空調を夜間、稼働させて温湿度を調節して防黴等の対策を行った。

しかしながら、課題としている展示室や収蔵庫を含め、資料の保存管理環境に関し、博物館レベルの水準に近づけるための維持管理には達していないのが現状である。

# II 調査研究事業

## 1 調査研究

### (1) 高山植物の生活史に関する研究 (担当：千葉悟志)

白馬岳において7月および9月にクルマユリを対象に訪花昆虫および結実の観察を実施した。また、ミヤマクワガタにおいては、博物館で栽培する個体を中心に花、種子、果実の調査を実施した。

### (2) 大北地域の植物分布調査 (担当：千葉悟志)

長野県の植物相を把握するため、県下で実施されている植物調査のうち、山岳博物館は今年、大町市で計2回実施した。調査の際には見直しができるように標本を採取し、標本は証拠として山岳博物館植物標本庫に配架予定である。

### (3) 企画展にかかる調査 (担当：千葉悟志)

令和6年開催予定の企画展「学校の生きもの探索記(仮)」に向け、市内小学校で植物(担当：千葉)8回、鳥類相(担当：栗林)12回、昆虫相(担当：清水博)の調査を計42回実施した。

### (4) ライチョウの飼育・繁殖技術確立を目指した研究 (担当：栗林勇太・岡本真緒・唐澤紗波・辰己萌恵・渡邊咲晴・瀧沢有純)

環境省のライチョウ保護増殖事業取り組みの一環として、ライチョウ飼育園館や、研究機関(日本獣医生命科学大学、岐阜大学、中部大学、大阪公立大学等)と連携しながら共同研究を行っている。本年度は環境省主導の中央アルプス野生復帰事業に参画し、野生型腸内細菌叢の構築試験を当館で実施することを計画していた。計画では、人工孵化したヒナに、野生下ライチョウ由来の菌末の投与と、高山植物の給餌を実施することで野外型の腸内細菌を持ったライチョウを生み出すことを予定していた。孵化に万全を期すため2つがいを形成し多くの受精卵を得ることを目標としたものの、1つがいのメスが死亡し、1つがいから得られた受精卵10卵を孵卵することとなった。しかしながら、すべての卵に発生が見られず、孵化・育雛には至らなかった。

今後も関係機関と連携を図り、ライチョウの保全事業に必要と考えられる調査研究を行っていく。

### (5) 北アルプス地域の気象に関する調査研究 (担当：鈴木啓助)

爺ヶ岳種池山荘での自動測器による気象観測を、長野県環境保全研究所と共同しながら継続して実施している。

大北地域における気象庁による気象観測は、現在のアメダス観測網では大町、白馬、小谷のみである。しかし、アメダス観測以前にはさらに多くの地点で気温や積雪深などの観測が行われていた。それら区内気象観測所における手書きによる観測原簿から、データを読み取り解析を行っている。

### (6) 企画展(絶滅動物)にかかる調査 (担当：栗林勇太)

大北地域において絶滅した動物に関して、聞き取り調査や文献調査等を行った。結果は令和5年度の企画展及び研究紀要にて公表した。

## 2 研究発表

### (1) 「令和元年台風 19 号後の千曲川氾濫原における植物相の回復状況」

6月10日(土)に信州大学教育学部(長野市)において開催された「長野県植物研究会 2023 年春の大会」において藤田淳一・井浦 和子・中村 千賀・千葉 悟志・松田 貴子の連名で口頭発表した。

### (2) 「市立大町山岳博物館研究紀要第 9 号」

原著論文

- ・中部山岳地域における近年の気温変動(鈴木啓助)

報告

- ・ミヤマクワガタ(オオバコ科)の生活史および花の構造について-日本産草本植物の生活史研究プロジェクト報告大 16 報-(千葉悟志・白井伸和・四方圭一郎・有川美保子・宮澤陽美)

短報

- ・古神城湖堆積物の露頭観察及びボーリング柱状図からみた古神城湖の変遷(竹村健一)
- ・統計資料から見る長野県の絶滅哺乳類(栗林勇太)
- ・チシマギキョウ *Campanula chamissonis* およびイワギキョウ *C. lasiocarpa* の相違する 2 点について(千葉悟志・白井伸和)

## III 教育普及事業

### 1 展示

#### (1) 常設展示

メインテーマを「北アルプスの自然と人」とし、「自然と人とが共生する山岳文化」を山岳博物館からのメッセージとして伝える。

#### ① 展示テーマおよび展示資料点数 総計 1,027 点(令和 5 年 3 月 31 日現在)

内訳(自然科学系 合計 453 点、人文科学系 合計 574 点)

展示テーマ	資料 点数※ <sup>1</sup>	展示テーマ	資料 点数※ <sup>1</sup>
3階 展示室 「あなたと山のかかわり 展望ラウンジ」ゾーン			計 105 点
大町のプロフィール	24 点	大町の空からマップ	1 点
後立山連峰のパノラマ	1 点	山頂の石たち	6 点
北アルプス後立山連峰の山々	20 点	雪形の伝承	27 点
山の伝説	7 点	「北アルプスの自然と人」映像	1 点
つながりプロローグ	18 点		
2階 ホール 「山の成り立ち」ゾーン			計 85 点
水の惑星・地球 46 億年の生い立ち	37 点	日本列島の生い立ち	1 点
驚きのフォッサマグナ	18 点	驚きの北アルプス	24 点
「北アルプスの生い立ち」映像	1 点	北アルプスとフォッサマグナ	4 点
2階 展示室 「山と生きもの」ゾーン			計 368 点
立山の氷河・カクネ里雪渓・いまを生きる生物	3 点	里山から高山までの生物	249 点
ニホンカモシカ	9 点	ライチョウ	62 点
溪谷の生物	9 点	湖の生物	18 点
湿原の生物	14 点	ライチョウの捕食者	4 点
1階 展示室 「山と人 北アルプスと人とのかかわり」ゾーン			計 438 点
山の魅力	7 点	北アルプスと人とのかかわり年代記	7 点
峠を越える 一針ノ木峠の歴史	39 点	山に暮らす 一山の恵みと山村の暮らし	87 点
山に祈る 一山の信仰	20 点	「山と人」映像	1 点

大町山岳人列伝	10点	山を測る —測量—	5点
山を調べる —博物学—	23点	山を描く —絵画—	8点
山を写す —写真—	21点	山で学ぶ —日本の近代登山—	154点
山に住まう —山小屋の変遷—	28点	登山の道具	23点
山とのかかわりの窓		つながりコラム	5点
1階 エントランス・ホール			計8点
「北アルプスの自然と人」導入	1点	山とわたしたちの未来	
新・対山館サロン	1点	こどもひろば	6点
1階 特別展示室 「山と美術 —山岳風景画とウッドシャフトピッケル—」※ <sup>2</sup>			計23点
山岳風景画	18点	ウッドシャフトピッケル	5点

※<sup>1</sup> 点数には、実物資料のほか、写真・図表グラフィックなどの図版資料と映像資料を含む。

※<sup>2</sup> 特別展示室の展示については、特別展・企画展開催時には各テーマで展示替えを行う。

## ②音声ガイドシステムのモニター（担当：千葉悟志）

電通国際情報サービスが開発した音声ガイドシステム「FACER 施設 Edition」のモニターを1年間実施し、開発者と3回（Web会議：2回、博物館：1回）意見交換を行った。

### (2) 企画展示・特別展示

#### ①企画展「ホネ展」（担当：栗林・岡本・清水）

a. 会 期：令和5年4月29日（土）～7月30日（日） ※開催日数：延べ85日間

b. 会 場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概 要：普段の生活の中では野生動物の骨を見る機会はほとんどないことから、博物館が収蔵する骨格標本を基に、骨が持つ役割や大町市内に生息する様々な動物たちの中に秘められた秘密について紹介し、来館者に骨の持つ魅力について知ってもらうことを目的とした。

d. 展示構成：当館に収蔵している動物の骨格標本を中心に展示し、北アルプスとその周辺に生息する生き物の骨格や、骨の役割について紹介した。

第1章 ホネの分布と役割 展示の導入として骨の分布と役割について解説した。ニホンザル・ツキノワグマの前身骨格などを展示し、大型動物の前身を構成するホネの全体像を紹介した。

第2章 咬むホネ ニホンカモシカやツキノワグマの頭骨を展示し、草食動物と肉食動物における頬弓骨の違いなどを紹介した。

第3章 見るホネ 魚類や鳥類の目の周辺には、強膜輪と呼ばれる特有の骨が存在する。マダイの頭骨の写真や、フクロウの骨格標本を展示しながら、強膜輪の必要性とその特徴について解説した。

第4章 食べるホネ ヘビは自分より大きなものを飲み込むことができる。その理由として、ヘビは左右に分かれる下顎を持つことが上げられることを、ヘビの骨格標本の展示を通して解説した。

第5章 守るホネ 肋骨等の心臓などの臓器を守るために存在する骨の形は、種によってさまざまな形をしていることを、ハクビシンやウシガエルなどの骨格標本の展示を通して解説した。

第6章 飛ぶホネ 空を飛ぶ生き物には、鳥類のほかにコウモリやムササビなどがあげられる。同じ飛ぶ生き物でも飛ぶ方法は異なり、ホネの構造も異なることを、カワセミやライチョウ、ムササビの骨格標本の展示を通して解説した。

第7章 掴むホネ 肉食動物の爪や嘴は、捕らえた獲物を容易に逃がさない構造となっていることなどを、オオタカの骨格標本や、カワセミなどの魚食性の鳥類の骨格の写真を通して解説した。「

e. 観覧者：6,810人（有料5,716人、無料1,094人）

#### f. 関連事業

ア ミュージアムガイド（担当：岡本真緒）

a. 開催日：令和5年7月15日（日）

b. 時 間：10:30～・14:30～ 各回20分程度

c. 場 所：市立大町山岳博物館 特別展示室

d. 参加者：延べ参加者30人

## ②企画展「北安曇の自然と文化」(担当：清水隆寿)

- a. 会 期：令和5年8月8日(火)～10月1日(日) ※開催日数：延べ51日間
- b. 会 場：市立大町山岳博物館 特別展示室
- c. 概 要：北安曇地域の気象や地質、動植物や歴史、文化財など、自然や歴史の特色を解説。
- d. 観覧者：4,443人(有料3,964人、無料479人)
- e. 関連事業

### ア ミュージウムガイド(担当：清水隆寿)

- ・開催日：令和5年9月17日(日) ※家庭の日
- ・時 間：午前10時30分～・午後2時30分～ 各回30分程度
- ・場 所：市立大町山岳博物館 特別展示室
- ・参加者：16人
- ・概 要：学芸員が展示の見どころなどを解説。

## ③企画展「大町と絶滅動物」(担当：栗林勇太)

- a. 会 期：令和5年11月3日(金・祝)～令和6年1月28日(日) ※開催日数：延べ69日間
- b. 会 場：市立大町山岳博物館 特別展示室
- c. 概 要：日本では、近代以降に多くの動物種が減少あるいは絶滅し、その要因は人による乱獲などの影響が大きい。実際に絶滅した動物の資料を展示し、絶滅した動物と近代以降の人との関わりに興味関心を持ってもらうとともに、現生動物の保全にも関心を持ってもらうことを目的として、本企画展を開催した。近代以降に絶滅した動物と人との関わりや、現在絶滅が危惧される動物及び当館のライチョウ保全の取り組みについて、剥製等を用いて解説した。
- d. 展示構成：実物資料27点(内、借用6点)、写真・図44点(内、借用・引用26点)を展示し解説した。

第一部 絶滅動物とは・・・絶滅の定義や、現生人類誕生以来の絶滅について解説

第二部 近代日本における人と動物・・・明治～戦前にかけての動物に関わる時代背景の解説。

第三部 絶滅動物・・・本企画展のメインとして、ニホンオオカミの頭骨、ニホンカワウソの剥製、トキの剥製・羽などを展示し、これらの種について解説した。

第四部 絶滅危惧種とその保全・・・現生動物への保全につなげるため、大町周辺で絶滅が危惧されている動物や、当館でのライチョウ保全の取り組みを紹介。

- e. 観覧者：2,740人(有料2,192人、無料548人)
- f. 所 見：企画展を目的に来館した方が全体の54%であることがアンケート結果から分かり、集客効果につながる内容であったと考える。アンケートからは、関心を持っている方にも満足いただける内容であったことが分かった。特にニホンカワウソの剥製は国内でも見られる施設が限られ、同資料を目的に来館する方もいた。現生動物の保全への関心喚起を図る展示・解説を引き続き行っていきたい。
- g. 関連事業

### ア ミュージウムガイド(担当：栗林勇太)

- ・開催日：令和5年11月3日(金・祝)、12月2日(土)、令和6年1月7日(日)
- ・時 間：各日とも午前10時30分～・午後2時30分～ 各回30分程度
- ・場 所：市立大町山岳博物館 特別展示室
- ・参加者：延べ参加者 大人51人
- ・概 要：学芸員が展示の見どころなどを解説。

### イ 講演会「ニホンオオカミを探し続けて50年」

- ・開催日：令和5年11月11日(土)
- ・時 間：午後1時30分～午後3時30分
- ・場 所：市立大町山岳博物館 講堂
- ・参加者：50人
- ・講 師：八木 博 氏(NPO法人ニホンオオカミを探す会代表)
- ・概 要：ニホンオオカミについて造詣の深い三峯山博物館客員研究員(NPO法人ニホンオオカミを探す会代表)八木博氏を講師にお招きした講演会。国内外に点在するニホンオオカミにまつわる様々な資料の調査や、55年間秩父を中心に行っている調査の内容や成果をお話いただいた。

- ・ **所 見**：市内や近隣市町村からの参加者が多く、周辺住民に関心を持っている内容のイベントが開催できた。アンケート結果から、講演のテーマに関心があった人の割合は約 96%であった。また、講演の内容に関しては、「全体的に興味深い」が 70.7%、「部分的に興味深い」を含めると 82.3%を占めた。関心のある多くの参加者に満足してもらえる内容であった。県外からの参加者も多くみられた。「こんなに素晴らしい博物館があったことを知れてよかった」という声を直接いただき、今回のイベントを通じて当市や当館を知ってもらおう好機ともなった。申込み者 62 名（内、当日飛び込み 8 名）、キャンセル 12 名で、当日の参加者は 50 名であった。当初の定員であった 40 名を超える申込み・参加者を集めることができた。以上から、当館の教育普及事業にとって有効なイベントが開催できたと考える。

### ウ 「信州の昆虫を食べよう！！」

- ・ **開催日**：12 月 9 日（土）
- ・ **時 間**：午前 9：00～午前 12：00
- ・ **場 所**：長野県山岳総合センター
- ・ **参加者**：15 人
- ・ **主 催**：長野県山岳総合センター（当館共催）
- ・ **概 要**：講師の話聞いたのち、昆虫食を実食した。大町地蜂愛好会の越山秀雄氏より、今まで扱ってきたハチの話や、氏が戦前より食べてきた地元の昆虫にまつわる講演を行った。越山氏の話を受けて、当館学芸員の栗林が、地元で食べられてきたイナゴなどの昆虫に関する分類や人との関わりについて解説を行った。実際にイナゴやカイコなどの昆虫食を試食した。試食品：イナゴの佃煮、カイコの佃煮、カイコカレー、コオロギクッキー、カイコシーズニング、シルクパウダーメレンゲクッキー。
- ・ **所 見**：老若男女問わず参加があった。シニア世代の参加者が多く、昔を懐かしむ声や、「自分も昔こんな虫を食べた」などの話題で盛り上がった。昆虫標本や解説に関心を持って聞いている参加者が多い印象を受けた。昆虫の試食は強制ではなかったが、参加者全員が試食に出された昆虫を食べていた。昆虫食の文化や、その虫の分類等について多くの方に関心を持ってもらうことができるイベントであったと考える。

### (3) さんばく研究最前線 —北アルプスの自然と人 トピックス—

山岳博物館 2 階ホールにおいて、博物館からの最新の研究成果や話題性のある情報をパネルにして、3 ヶ月ごとに内容を入れ替えながら、来館者の皆様に展示をご覧くださいコーナーとして、平成 26 年の展示改修より開始されたパネル展示。

なお、パネル展にあわせて、展示期間中に発行する広報誌『山と博物館』に展示内容を紹介する特集ページを掲載し、展示をご覧くださいできなかった方々にも情報提供を行った。

#### ①テーマ「下駄スケートの歴史」（担当：清水隆寿）

- 会 期：当館 2 階ホール展示 令和 5 年 5 月 1 日（月）～6 月 30 日（金）
- 掲載誌：『山と博物館』2023 春号（第 68 巻第 1 号）

#### ②テーマ「大町の冬は暖かくなっているのでしょうか」（担当：鈴木啓助）

- 会 期：当館 2 階ホール展示 令和 5 年 7 月 1 日（土）～9 月 30 日（土）
- 掲載誌：『山と博物館』2023 夏号（第 68 巻第 2 号）

#### ③テーマ「クルマユリの花しは、昆虫がやって来るのか？来ないのか？」（担当：千葉悟志）

- 会 期：当館 2 階ホール展示 令和 5 年 10 月 1 日（日）～12 月 28 日（火）
- 掲載誌：『山と博物館』2023 秋号（第 68 巻第 3 号）

#### ④テーマ「大町市における昆虫の動態について」（担当：清水博文）

- 会 期：当館 2 階ホール展示 令和 6 年 1 月 4 日（木）～3 月 31 日（日）
- 掲載誌：『山と博物館』2023 冬号（第 68 巻第 4 号）

#### (4) 移動展示

##### ①「第19回 安曇野アートライン展」への参加と協力（担当：清水博文）

- a. 主 催：アルプスあづみの公園管理センター
- b. 共 催：安曇野アートライン推進協議会
- c. 会 期：令和5年11月23日（木）～12月17日（日）
- d. 会 場：国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区 あづみの学校多目的ホール（安曇野市）
- e. 概 要：安曇野アートライン推進協議会加盟の美術館・博物館の作品や紹介パネル等を一堂に展示し、各館所蔵の芸術作品の鑑賞及び出展館の由来や歴史などを通してアートの世界を体感していただいた（主催：アルプスあづみの公園マネジメント共同体、共催：安曇野アートライン推進協議会）。また、本展開催期間中、あづみの公園とアートライン加盟館の利用促進を目的として、各館を巡る「アートライン・スタンプラリー」を実施。本年度、当館からは牧 潤一画5点を出展。また、スタンプラリーにも参画し、景品として山岳博物館無料入館券を提供した。

##### ②「令和5年度 出張安曇野アートライン展 in 山岳博物館－北アルプス国際芸術祭2024 連携企画展」（担当：清水博文）

- a. 主 催：大町市教育委員会
- b. 共 催：安曇野アートライン推進協議会
- c. 会 期：令和5年10月7日（土）～22日（日）
- d. 会 場：市立大町山岳博物館 特別展示室
- e. 概 要：安曇野アートライン加盟館より「水」・「木」・「土」・「空」をテーマとした作品を展示した。会期中の入場者数は1,505人であった。安曇野アートライン加盟館のよいPRの機会にもなった。

## 2 教育普及活動

### (1) 学習会等の開催

#### ①市立大町山岳博物館主催 大町山岳博物館友の会 共催事業

##### 令和5年度 大町山岳博物館友の会 総会記念講演会

「那須野雅好氏 講演 ～虫の眼で見た大町・安曇野の自然～」(担当：岡本真緒)

- a. 共 催：大町山岳博物館友の会
- b. 開催日：令和5年4月23日（日）
- c. 場 所：市立大町山岳博物館 講堂
- d. 対 象：どなたでも 定員30人
- e. 参加者：33名
- f. 講 師：那須野雅好氏（三郷昆虫クラブ世話人、安曇野オオルリシジミ保護対策会議代表）
- g. 概 要：感染症に侵された昆虫の異常行動、田淵記念館での「むしの会」の活動、大町市・安曇野市で見られる希少昆虫や市内の多様性を守るための仕組みについてなど、幅広く昆虫についてのお話をいただいた。

#### ②ふぞくえんまつり（担当：栗林勇太・千葉悟志・岡本真緒・唐澤紗波・辰己萌恵・渡邊咲晴・瀧沢有純）

- a. 会 期：令和5年5月2日（火）～5月6日（土）
- b. 会 場：市立大町山岳博物館 付属園
- c. 参加者：延べ1,613人（子ども～大人）  
(内訳)「付属園クイズラリー」 219人 5月2日～6日  
「動植物観察ツアー・おおまびょんと遊ぼう」 92人 5月3日・5日  
「ライチョウガイド」 1302人 5月2日～6日
- d. 概 要：展示動物を題材にしたクイズを解いて回る「付属園クイズラリー」、展示動植物を解説しながら園内を巡る「動植物観察ツアー」、ライチョウの生態や保全について解説を行う「ライチョウガイド」、幅広い層にカモシカに興味を持っていただく「おおまびょんと遊ぼう」の4つの催しを実施した。山岳博物館では、開館間もない昭和28年頃から動植物を飼育栽培する付属園（動植物園）を屋外に併設し、希少野生動植物の保護増殖や調査研究を行うとともに、北アルプスの山麓から高山に生息する生物を飼育栽培して、生体展示などの教育普及を行っている。また、平成9年

度から大北地域周辺の野生傷病鳥獣を救護収容している。付属園にかかわる市民対象の各種催しを実施する期間を「付属園まつり」と称して各催しを実施することで、付属園と飼育動物を身近に感じ、親しみを持っていただくとともに、傷病鳥獣の救護などの活動についても広く周知し、付属園の役割について理解を深めていただいた。これにより、大町市周辺地域の野生動物や自然環境への関心を高めていただくことを目的とした。

- e. **所見**：「付属園クイズラリー」については、例年スタンプラリーを実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から参加者にスタンプに触れさせることができず、クイズラリーに変更したものの子どもから大人まで幅広く参加者が見られた。記念として付属園内を回る際のアクセントとして非常に有効であったと考える。ライチョウの見学に多くの来館者が見えられたことから、随時解説を行う「ライチョウガイド」は保全への関心や当館の事業を理解していただくうえで有効であったと考える。更に、「動植物観察ツアー」では、飼育・栽培動植物について解説を加えることで、付属園の役割や傷病鳥獣救護といった観点にとどまらず動物への関心を深める機会となり、自然環境保全への入り口としての機能を果たした。

#### ア 「付属園クイズラリー」

付属園の展示動物を題材にしたクイズを解きながら付属園を回ってもらうことで楽しみながら学ぶ機会とするとともにじっくり観察してもらうことで見学効果を高め、飼育動物や付属園に親しんでいただく。

・開催日時 5月2日（火）～5月6日（土） 《5日間》

#### イ 「動植物観察ツアー」

来園者と一緒に付属園の飼育・栽培動植物を解説しながら園内を回することで、見学効果を高め、飼育動物や付属園の役割を理解していただく。

・開催日時 5月3日（水）、5月5日（金） 各日午前11時～、午後2時～

#### ウ 「おおまぴょんと遊ぼう」

カモシカをモチーフとしたおおまぴょんが動物観察ツアーの後に登場。小さい子供にも付属園やカモシカに親しんでもらう機会とする。

・開催日時 5月3日（水）、5月5日（金） 各日11時30分～、15時～

#### エ 「ライチョウガイド」

一般公開しているライチョウ舎において、展示されている生体のライチョウを見ながら生態や保全の取り組みについて解説を行うことで、ライチョウやその生息する高山生態系の保全について理解を深めていただく機会とする。

・開催日時 5月2日（火）～5月6日（土） 《5日間》

### ③自然ふれあい講座 みんなで温暖化ウオッチ「セミのぬけがらを探せ！」（担当：栗林勇太）

（「長野県環境保全研究所 令和5年度自然ふれあい講座」を兼ねて開催）

a. **開催日**：令和5年8月1日（火）

b. **共催**：長野県環境保全研究所

**協力**：自然観察指導員長野県連絡会、セミの抜け殻しらべ市民ネット

c. **場所**：大町公園周辺及び当館講堂

d. **参加者数**：小人4人・大人4人 合計8人

e. **概要**：セミの抜け殻を探したり、じっくり観察しながら種を同定することで、楽しみながら身近な自然を学ぶ機会を提供する。また、毎年繰り返し実施することで、地球温暖化がセミに与える影響を調査する。本年度も大町市以外に長野県下5ヶ所（長野市・上田市・松本市・伊那市・飯田市）にて同様の調査を継続している。

f. **所見**：10組（20名）の募集のところ、4組の応募があった。コロナ禍以前より申込者が少なかった。この取り組みは、温暖化の影響を把握ができることに加え、子どもに自然への関心を持ってもらうための有効な手段であることから、次年度以降も継続して実施していきたい。

### ④第22回 北アルプス雪形まつり（担当：清水隆寿）

今年で22回目となる北アルプス雪形まつり実行委員会（山岳博物館では実行委員として参画）主催の「北アルプス雪形まつり」雪形ステージが令和5年6月10日（土）に大町市文化会館において開催された。併せて、大町温泉郷を会場にした雪形パネル展及び安曇野周辺での雪形ウォッチングが開催さ

れた。

- a. **協力** あづみの雪形研究会 大町市観光協会
- b. **雪形パネル展** 雪形の写真と解説のパネル展示  
展示会場：大町温泉郷内のホテル6館、大町市図書館  
展示期間：令和5年4月26日（水）～5月10日（水）（合計15日間）
- c. **雪形ウォッチング** 白馬村から安曇野市にかけての雪形見学ツアー（マイクロバス使用）  
開催日：5月21日（日） 参加者大人14人  
講師：あづみの雪形研究会・宮澤洋介、山岳博物館・清水隆寿

#### ⑤大町自然探検隊（担当：岡本真緒）

- a. **開催日**：令和5年4月～令和6年3月 ※計6回
  - ・4月30日（日）「バードウォッチング」（担当：清水博文・栗林勇太） 雨天のため中止
  - ・6月18日（日）「鷹狩山でササユリを観察しよう」（担当：千葉悟志） 参加人数17名
  - ・1月20日（土）「バードウォッチング」（担当：栗林勇太） 参加人数8人
  - ・10月22日（日）「河原の石ころをさがそう」（担当：竹村健一） 参加人数18人
  - ・9月18日（月・祝）「水辺の生き物を観察しよう」（担当：岡本真緒） 参加人数6人
  - ・11月19日（日）「星空観察教室」（担当：岡本真緒） 参加人数18人
  - ・1月20日（土）「バードウォッチング in 仁科三湖」（担当：栗林勇太） 参加人数8人
- b. **場 所**：大町市内および周辺地域
- c. **概 要**：大町市内周辺には山岳・里山・市街地・河川・湖・溪流などのバリエーション豊かな自然環境が存在し、それらを学ぶイベントを発案した職員1人で実施してきた経緯がある。担当者は悩みながらもイベントを開催してきたと思われるが、当然、内容に偏りが生じ、参加者も少ないなかで行われてきたと推測される。このため、本年度は各分野を担当する職員が担当した。
- d. **所 見**：各分野の職員が担当することで、多岐にわたる自然を学ぶ機会となり、大町市内周辺の自然を理解する機会となったと考えられる。ただし、今年度は担当者の異動により場当たりの対応となってしまったことから、継続して実施する場合には、本事業の目的を達成するためにしっかりした計画を立案することが重要と考えられる。

#### ⑥市立大町山岳博物館主催 大町山岳博物館友の会 共催事業

##### (1)山岳博物館友の会創立45周年記念行事 記念講演会

「三戸呂拓也氏 講演 ～山が教えてくれたこと～」(担当：清水隆寿・岡本真緒)

- a. **共 催**：大町山岳博物館友の会
- b. **開催日**：令和5年9月2日（土）
- c. **場 所**：サン・アルプス大町 2階大会議室
- d. **対 象**：どなたでも 募集人員150人
- e. **参加者**：160名
- f. **講 師**：三戸呂拓也氏（登山家 大町市出身）
- g. **概 要**：地元の出身で日本を代表する登山家の一人として活躍する三戸呂氏を講師に迎え、山登りを通じて得た人生の教訓、登山の楽しさや辛さ、また山との関わりについて講演をいただいた。

##### (2)山岳博物館友の会創立45周年記念行事 記念登山

「三戸呂拓也と行くフィールドゼミナール -鷹狩山トレッキング-」(担当：清水隆寿・岡本真緒)

- a. **共 催**：大町山岳博物館友の会
- b. **開催日**：令和5年9月3日（日）
- c. **場 所**：山岳博物館～鷹狩山山頂～山の子村～山岳博物館（1階展示室・講堂）
- d. **対 象**：どなたでも 定員20人
- e. **参加者**：22名
- f. **案 内**：三戸呂拓也氏（登山家 大町市出身）
- g. **コーディネーター**：大西浩氏（長野県山岳協会副会長）
- h. **概 要**：記念講演に引き続き記念行事として、講師の三戸呂氏と参加者が一緒に山登りを楽しむ機会を創出、博物館でも山に関する三戸呂氏の愛読書等についてお話を伺う機会を設けた。

## ⑦研究報告

「山のサイエンスカフェ in さんぱく 2024」さんぱくゼミナール（担当：千葉悟志）

- ・開催日：【前期】令和6年3月3日（日）・【後期】3月10日（日）
- ・時間：前・後期両日とも 午後1時30分～午後4時
- ・場所：市立大町山岳博物館 講堂
- ・参加人数：【前期】大人18人、【後期】18人 合計36人（定員各回30人）
- ・研究報告：【前期】「ライチョウのメスの鳴き声」（岡本）、「中部山岳地域における近年の気温変動」（鈴木）、「火山灰の魅力」（竹村）

【後期】「高山植物ミヤマクワガタには不思議がいっぱい」（千葉）、「大町の鳥今昔」（栗林）、「大町市の昆虫の動態」（清水博）

- ・概要：当館の調査研究事業について、具体的な内容を市民や地域住民にわかりやすく伝えることにより、その学術的な価値を広く社会に認知してもらい、地域における山岳文化の醸成に結びつける目的で企画・開催。

当館の職員が前年度の『研究紀要』誌上で発表したり、当年度の「さんぱく研究最前線」でパネル展示を行ったりした北アルプス周辺地域の自然科学と人文・社会科学の諸分野における調査研究、あるいは収蔵資料に関する各種情報等について研究報告・話題提供を行う。

本催しは冬期間の博物館利用者数の増加へつながるように、前期・後期の2回にわたって2週連続で実施するスタイルとした。

## (2) 学校との連携・融合（調整：千葉悟志）

期 日	内容（館外の実施場所）	対象校・学年など	人数（人）	指 導
5月31日	職業体験学習（～6月1日）	八坂小中学校7年	1	鈴木・千葉
6月8日	職業体験学習（～9日）	白馬中学校2年	2	栗林
6月8日	青木湖キャンプ自然観察指導（大町市）	大町南小5年（2クラス）	40	清水隆・栗林・岡本
6月13日	学校連携授業「市の様子」	大町北小学校3年生（2クラス）	46	清水隆
7月6日	青木湖キャンプ自然観察指導（大町市）	白馬南小学校5年（1クラス）	19	清水隆・千葉
7月6日	自然観察指導（大町市）	大町西小学校自然探検クラブ	24	清水博
7月7日	青木湖キャンプ自然観察指導（大町市）	大町西小学校5年（2クラス）	48	清水隆・千葉
7月11日	青木湖キャンプ自然観察指導（大町市）	大町北小学校5年（2クラス）	44	清水隆
8月29日	青木湖キャンプ自然観察指導（大町市）	会染小学校5年（2クラス）	45	栗林・岡本
8月30日	親海湿原自然観察学習（大町市）	大町岳陽高1年（2クラス）	77	千葉
10月3日	職業体験学習（～4日）	白馬高等学校1年	2	清水博・栗林・千葉
10月4日	学校連携授業「生活科の授業」	大町東小2年（1クラス）	27	栗林
10月18日	職業体験学習（～19日）	大町中学校2年	2	清水博・千葉
11月28日	学校連携授業「市の様子」	大町南小学3年（2クラス）	47	栗林
12月4日	出張講座（大町市）	大町東小学校6年生（1クラス）	23	竹村
1月12日	総合的な学習の時間	大町中学校1年	4	栗林・岡本

2月27日	学校連携授業「総合的な学習の時間」	大町西小3年(2クラス)	46	千葉・栗林
実施回数：16回（延べ20日）		学校数：10校	人数合計：469人 （延べ476人）	

①「学校との連携授業」（市内小学校の博物館活用事業）（調整：千葉悟志）

a. 実施日：上記のとおり ※6～2月の間に、市内4小学校により4回実施

b. 場所：理科：2階「山と生きもの」「山の成り立ち」、付属園 ほか  
社会科：1階「山と人」、3階「展望ラウンジ」

c. 参加者数：市内小学生 延べ166人（内訳：2年生27人、3年生139人）

※このほか各小学校教員先生方の引率あり

d. 概要：学校教育と社会教育との連携・融合（学社連携・融合）推進のひとつとして、博物館の展示を利用した学校との連携授業を実施。平成22年度から2ヶ年、大町南小学校をモデル校に4年生の理科授業（動物）を年1回実施し、授業プログラムやワークシートを作成して検証・改良を行った。それをふまえ、平成24年度から新たに実施希望校を募り、市内小学校の博物館活用事業を本格実施している。平成29年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより、さらに実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざす。同時に、博物館の所蔵資料や専門員・学芸員といった職員を学校の授業で活用していただくことで、児童・生徒の学習理解度の向上が期待でき、市民により身近な博物館をめざす。

ア 連携授業プログラム1 理科・4学年「生き物のくらし」「人の体のつくりと運動」  
（学習素材：ライチョウ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ）

イ 連携授業プログラム2 社会科・6学年「土地（大地）のつくりと変化」  
（学習素材：化石、北アルプスの地形・地質）

ウ 連携授業プログラム3 社会科・3学年「わたしたちのまち みんなのまち 一市の様子」  
（学習素材：床面地図（空からマップ）、3階からの展望（市街地周辺）など）

エ 連携授業プログラム4 社会科・3学年「かわってきた人々のくらし 古い道具と昔のくらし」  
（学習素材：山や雪にかかわる古い道具（民具）の展示）

オ 連携授業プログラム5 社会科・4学年「きょう土を開く（きょう土に伝わる願い）」  
（学習素材：地域の発展に尽くした先人・百瀬慎太郎）

カ 連携授業プログラム6 社会科・4学年「わたしたちの県 一県の広がり・特色のある地いきと人々のくらし」  
（学習素材：床面地図（空からマップ）、3階からの展望（北アルプス後立山連峰周辺）など）

e. 所見：29年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざしたが、令和5年度は連携授業の減少により、令和4年度（約880人）からほぼ半減した。減少の原因については不明。

②就労（職業）体験学習（担当：千葉悟志）

a. 受入校および人数：大町市立八坂小・中学校8年1名（5月31日～6月1日）・白馬村立白馬中学校2年2名（6月8日～9日）・長野県白馬高等学校1年2名（10月3日～4日）・大町市立大町中学校2年2名（18日～19日）

b. プログラム1：飼育動物の飼育体験（一日を通して動物の体調観察や飼育を体験）

プログラム2：学芸員・専門員の業務体験（展示や収集保管、受付、動物飼育を体験）

c. 概要：市内をはじめ近隣町村の中学校および高校の希望校より各校2名までを受け入れ、2日間、体験学習を実施。

d. 所見：今年度より、展示や収集保管、受付、動物飼育を体験いただくプログラム2を設け、受付時にプログラムを選択できるようにした。4校の受け入れであったが、全校、プログラム2の選択となり、博物館業務を体験したいことがわかった。

プログラム2では、1日目に博物館の展示の意図を知るとともに、収蔵庫などのバックヤードの見学、収集保管では、植物標本の作製や昆虫標本の整理を行った。2日目は、午前付属園の展示動物や傷病鳥獣の体調管理にかかる観察や飼育、午後受付において来館者へ館内の概要、導線の説明を行い、一通りの業務の体験をしていただいた。

### (3) 博物館実習の受入（調整：岡本真緒）

期 日	実 習 者	人 員	指 導
7月30日（日） ～8月4日（金） ※計6日間	信州大学 工学部 4年生 信州大学 工学部 4年生 東京農業大学 国際食糧情報学部 4年生 八洲学園大学 生涯学習学部	4人	鈴木・清水(博)・ 清水(隆)・千葉・ 栗林・岡本・竹村

博物館法施行規則第2条（博物館実習）第1項の規定にもとづき、学芸員の有資格者となるために大学で修得すべき博物館関係科目単位の一つである博物館実習を希望する大学生の受け入れを行った。当館での博物館実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、実習を実施した。教育普及を中心に資料整理や受付業務等の博物館業務全体について実習を行い、地方における地域博物館の役割を体験的に学習していただいた。

当館での実習志望の理由は例年と同様であり、「山岳」をテーマにした博物館である当館での実習を希望したため、全国的にもユニークなテーマの当館が実習先として学生に選ばれた結果である。計画に基づき、一つの事業に限らず網羅的に博物館全体の業務を経験していただくことで、学芸員になるための単位取得のためだけではなく、博物館における多岐にわたる事業の理解と、地方における地域博物館の役割について深く理解していただいた。当館としては博物館実習を教育普及活動の一環として位置づけ、生涯学習支援・社会教育の推進につながるものとして実施している。また、学生へ指導することによって、自らが担当している業務について役割や意義をあらためて見直す機会にもなった。実施方法として、実習の実施に際して各担当者と調整し、実習期間中の1日ごとの詳細な学習計画を作成し、事前に実習生に送付した。近隣博物館・美術館巡りでは、各自で自由に巡る形式にしたことにより車を持っていない実習生の行動範囲を狭めてしまう結果につながるなど実施手法に改善すべき点が見られた。

### (4) 学習会等への協力（調整：千葉悟志）

期 日	内容（館外の実施場所）	主 催	人数（人）	指 導
5月5日	居谷里湿原自然観察会	大町市文化財センター	18	千葉
5月14日	冒頭展示説明	JR 東日本びゅうツーリズム	30	千葉
5月24日	館内展示説明	三越伊勢丹ニッコウトラベル	26	清水隆
5月27日	館内展示説明	大町市まちづくり交流課	24	清水隆
5月28日	館内展示説明	ジパング大人の休日倶楽部	18	清水隆
6月17日	出張講座（大町市）	塩の道ちょうじや	14	栗林
6月24日	信州大学博物館実習（冒頭説明）	信州大学	62	清水隆
6月28日	冒頭説明	佐久市文化財に親しむ会	22	岡本
7月8日	出張講座（大町市）	大町市文化財センター	16	鈴木
7月8日	雪形ウォッチング	エバーグリーン	27	清水隆
7月8日	講座	松本ガイド協会	12	岡本・辰巳
7月8日	館内展示説明	育てる会	22	清水隆
7月9日	出張講座（安曇野市）	長野県勤労者山岳連盟	20	鈴木
7月9日	出張講座（小谷村）	大町山岳博物館友の会	17	千葉
7月25日	冒頭説明	お山の学校	16	清水博
7月27日	館内展示説明	クラブツーリズム	21	清水隆
7月30日	冒頭説明	入善町鹿熊正一後援会	35	清水隆
8月3日	出張講座（大町市）	JTB ガイアレック	11	清水隆
8月4日	館内展示説明	クラブツーリズム	23	千葉
8月5日	出張講座（安曇野市）	安曇野市豊科図書館	20	栗林
8月5日	自然観察指導（～6日）	石川植物の会	6	千葉
8月9日	自然観察指導	山村留学センター	10	栗林・岡本
8月9日	冒頭説明	関西電力滋賀支社	6	清水隆
8月18日	自然観察指導	大町市農林水産課	30	千葉

8月25日	館内展示説明	クラブツーリズム	27	栗林
8月30日	自然観察指導	長野県大町岳陽高等学校 1年(2クラス)	77	千葉
8月31日	冒頭説明	JTB 旅物語西日本	16	清水博
9月7日	館内展示説明	クラブツーリズム	17	岡本
9月9日	自然観察指導(～10日)	長野県植物研究会	25	千葉
9月21日	自然観察指導	大町西小学校自然探検ク ラブ	24	清水博
10月8日	自然観察指導	山村留学センター	2	栗林
10月11日	冒頭説明	道新観光	12	栗林
10月11日	館内展示説明	須坂市生涯学習課	13	千葉
10月15日	館内展示説明	埴生公民館	25	千葉
10月20日	館内展示説明	大町市企画財政課	4	鈴木・栗林
10月25日	館内展示説明	シニア大学(長野市)	17	岡本
10月29日	冒頭説明	農家組合	9	岡本
11月4日	自然観察指導	山村留学センター	4	竹村・栗林
11月5日	冒頭説明	群馬自然史博物館友の会	26	清水博
11月22日	冒頭説明	小川村公民館	31	清水博
12月5日	講座	長野県林業大学	40	鈴木・栗林
実施回数：41回(延べ43日)		件数：35団体	人数合計： 761人	

#### (5) 博物館資料の特別利用(調整：千葉悟志)

①館内利用 5件(このほか、山岳図書資料の館内利用53件)

②館外利用 23件 ※内訳は下記のとおり(このほか、山岳図書資料の館外利用12件(資料点数82点)、長期貸出による館外利用4件)

期 間	目 的	利用者	利用資料・点数
5月16日～	Snow navi 観 光レポート 掲載	(株)スノーナビ	館内風景
6月	作品製作の イメージ	ボタニカルアート風花	ライチョウ写真
6月下旬～8月31日	写真展展示 資料	やまテラス大滝	雪形 Yukigata
6月15日～	雑誌掲載	(株)山と溪谷社	絵画(大下藤次郎)1点
6月中旬	研修資料掲 載	個人	百瀬家所蔵写真画像データ4 点
6月末～2024年6月末	雑誌掲載	宮島制作室	外観写真・飼育ライチョウ写 真各1点
7月1～	雑誌掲載・特 別展示利用	(株)テレビ松本ケーブ ルビジョン	はがき写真1点
7月14日～	雑誌掲載	(株)山と溪谷社	遠山品衛門ほか2点
8月24日～	雑誌掲載	アルティザンオフィス	外観・内観・付属園
9月30日	講演会資料	個人	飼育ライチョウの写真
10月16日～	デジ タル アー カイ ブ 製 作	大町市文化財センター	輪違栗林家文書1点
11月～	報告会	大町市企画財政課	2階大型パネル(岳野湖山) 画像データ1点

11月16日	テレビ放映	太平洋ADC フォルテ(株)	善光寺道名所図会ほか3点
11月25日	研究発表	個人	植物さく葉標本画像1点
12月～	大町市のインスタグラムへの掲載	大町市企画財政課	館内展示資料の写真
12月～1月28日	テレビ放映	NHK 長野放送局	企画展関連の写真3点
12月3日～	雑誌掲載	近藤企画	ニホンオオカミの頭骨写真
12月末～2024年5月末	雑誌掲載	個人	写真・イラスト等15点
1月～	翡翠会動画製作	ニホンオオカミ館	企画展の映像等
1月	新聞掲載	中日新聞	ライチョウ写真
1月31日～	研究会誌掲載	個人	植物さく葉標本画像2点
2月15日～3月14日	雑誌掲載	(株)ネイチュアエンタープライズ	伝書バトの山岳通信記事内の写真資料ほか3点
2月25日～2024年5月中旬	企画展展示	大山崎山荘美術館	加賀正太郎使用の装備ほか6点

### ③長期貸出 4件

期間	目的	利用者	利用資料・点数
昭和55年7月21日～	常設展示	京都市動物園	カモシカ骨格標本2点
昭和56年7月1日～	教育普及	新潟県	ライチョウ剥製2点
平成18年11月15日～	常設展示	富山市科学博物館	ライチョウ剥製1点
平成28年4月28日～	常設展示	長谷川恒男記念庫	長谷川恒男使用登山靴1点

※これらのほか、報道機関・雑誌編集社などによる各種取材などがあり、随時これらに協力した。  
 なお、社会教育施設・研究機関・個人などによる各種照会については別途記載のとおり。

### (6) 山岳図書資料館の利用 (担当：清水隆寿・降旗秀子)

開館日数	利用者数※			資料閲覧	資料貸出		利用時間
	市内	県内	県外	件数	件数	点数	
317日	9人	12人	35人	53件	12件	82点	計44時間35分
	計56人			計65件			

※令和4年度利用者数81人と比較し、令和5年度の利用者数は56人となり、69%の減少。  
 ※資料閲覧と資料貸出との同時利用者を含む。

## 3 執筆・出版

### (1) 出版

#### ①出版物

##### a. 広報誌『山と博物館』(担当：岡本真緒)

本誌は、当館創立5年後の昭和31年2月20日「やまと博物館」として第1号を創刊。当初は当館後援会発行による有料による月刊の発行物として、旬の話題や保護動物の紹介、博物館の出来事などの記事を掲載していた。その後、「山と博物館」に改称。当館発行の月刊機関誌として位置付けられるようになり、各分野の専門家や職員等による学術色の濃い読み物的な内容の文章を掲載するようになる。時代を経るにつれ、前述のような内容の紹介に誌面を多く割くようになったが、平成26年3月の展示改修によるリニューアルオープンを機に、創刊当初に立ち返り、博物館の動きや北アルプスの話題などをより分かりやすく、より広くお伝えしようと考え、本誌の編集方針を大幅に見直し誌面を刷新。第59巻第3号(2014年4月号)から、無料の広報誌として位置づけて発行することとした。これは平成27年度の『研究紀要』創刊を見越して学術的な文書の掲載はそちらに譲り、速報的なお知らせ等は平成26年3月の展示改修を機にサイトをリニューアルした公式ホームページを

最大限に活用するといった広報・宣伝を含め、館全体の情報発信体制を見直す中でのことであった。平成 30 年度からは、これまでの月刊から季刊に変更、夏・秋・冬・春の年 4 回とし第 63 巻第 4 号（2018 夏号）から第 64 巻第 1 号（2019 春号）を発行した。これは、大町市が山岳文化都市宣言のまちであることから、市民の皆様にご覧をより身近に感じていただけるように、毎号の誌面を増やして今まで以上に内容を充実し、市内全戸の皆様方に配布することとしたことによる。

本年度は、第 68 巻第 2 号（2023 夏号）〔発行日：令和 5 年 6 月 21 日〕、第 68 巻第 3 号（2023 秋号）〔発行日：令和 5 年 9 月 15 日〕、第 65 巻第 4 号（2023 冬号）〔発行日：令和 5 年 12 月 20 日〕、第 69 巻第 1 号（2024 春）〔発行日：令和 6 年 3 月 22 日〕を編集・発行した。

各号の発行部数：10,000 部、体裁：A4 判、8 頁、カラー刷り。毎号、『広報おおまち』とともに組み込み文書として市内全戸へ配布し、市内の小中学校や社会教育施設・文化施設等へ配布・設置したほか、県内外の関係者や関係機関等への配布を行った。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

#### b. 『年報』（担当：清水隆寿）

『市立大町山岳博物館 令和 4 年度 年報』（発行日：令和 5 年 7 月 30 日、発行部数：220 部、体裁：A4 判、47 頁、単色刷り）を編集・発行し、関係機関への配布を行った。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

#### c. 『研究紀要』（担当：清水博文）

当館では、調査研究事業の一層の充実を図ることで、学術的な成果情報を資料収集保管事業や教育普及事業へ展開するという博物館活動の良好な循環体制の構築を進めるため、北アルプスと周辺地域の自然科学、人文・社会科学諸分野の調査研究に関する学術的な成果情報を収録する『研究紀要』を平成 27 年度に創刊した。

本年度、『市立大町山岳博物館研究紀要 第 9 号』（発行日：令和 6 年 3 月 31 日、発行部数：本誌 400 部、本誌体裁：A4 判・カラー、42 頁）を編集・発行し、関係者や関係機関等へ配布した。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

### ②販売中の出版物（調整：清水博文）

現在販売中の当館編纂による出版物は以下の通り。 ※完売のもの除く（令和 6 年 3 月 31 日現在）

書 名	発行先	発行年	備 考
H27 年度 企画展 北アルプス山麓の自然に蝶が舞う	市立大町山岳博物館	平成 28 年	館内にて販売中
北アルプス登山史資料 2 一白馬岳周辺登山史一	〃	平成 24 年	〃
H24 年度 企画展 大地はなぞだらけ	〃	平成 24 年	〃
北アルプス誕生と高山植物	〃	令和 4 年	〃
研究紀要 第 4 号	〃	令和元年	〃
研究紀要 第 6 号	〃	令和 3 年	〃
研究紀要 第 7 号	〃	令和 4 年	〃
研究紀要 第 8 号	〃	令和 5 年	〃
R 5 年度 企画展 ホネ展	〃	令和 5 年	〃
R 5 年度 企画展 大町と絶滅動物	〃	令和 5 年	〃

## 4 広報・宣伝（調整：岡本真緒）

博物館の施設利用案内や各種催し案内、博物館の活動紹介や魅力紹介を広く周知することで、より多くの方々に博物館を知っていただき、興味・関心を持っていただいて博物館を利用していただくため、公式ウェブサイトや公式 SNS の管理（更新・充実）し、翌年度の年間行事予定のチラシを印刷した。

公式ウェブサイトや公式 SNS の管理のほか、年間行事チラシ印刷・配布を通じ、博物館の認知度・関心度を高め、利用者増を図りたい。これにより、市民や地域住民、登山者や観光旅行者等のだれもが、いつでも、どこでも気軽に利用していただける場所として広く親しまれる博物館づくりにつなげ、地域における博物館の存在価値を一層高めていきたい。

ただし、広報・宣伝における効果的な情報発信の内容や手法等については今後検討し、常時見直していく必要がある。博物館全体の広報・宣伝（情報提供）体制を再確認し、より効果的な体制を構築することが急務である。そのためにも将来を見据えた博物館マネジメントを戦略的に進めることが重要である。そのためまずは現状を把握するため、観光施設としての面に重点を置いた市場調査の実施を検討することも一案と考える。

**(1) 公式ウェブサイト管理**（担当：岡本真緒）

インターネット媒体として、公式ウェブサイト上の掲載情報について企画展等の開催等にあわせて随時更新を行った。 URL：https://www.omachi-sanpaku.com

なお、公式ウェブサイト以外にも、大町市や安曇野アートラインの公式ウェブサイトにおいて、各担当が必要に応じて情報発信を随時行った。

年 度	プレビュー数 (昨年対比)	閲覧ユーザー数（人）	備 考
平成 26 年 (2014) 4 月	157,667	22,454	山岳博物館博物館公式ウェブサイト使用開始年
平成 27 年 (2015) 4 月	179,795 (114%)	28,503	
平成 28 年 (2016) 4 月	191,864 (107%)	30,550	
平成 29 年 (2017) 4 月	166,611 (87%)	31,090	
平成 30 年 (2018) 4 月	177,668 (107%)		
令和元年 (2019) 4 月	199,295 (112%)		
令和 2 年 (2020) 4 月	165,434 (83%)		
令和 3 年 (2021) 4 月	192,329 (116%)	44,695	
令和 4 年 (2022) 4 月	203,970 (106%)	50,476	
令和 5 年 (2023) 4 月	65,020 (32%)	51,007	

**(2) SNS を用いた情報発信**（担当：岡本真緒）

近年 SNS を用いた情報発信が企業などでも行われており、大町市でも文化会館や市民活動サポートセンターで運用が始まっている。当館では 2019 年 5 月から始めている Facebook ページの運用に加えて、twitter、instagram を 2020 年 5 月から開始した。

主にイベント情報の告知、飼育動物に関する内容についての情報を発信した。より効果的な発信頻度や内容については随時検討を続ける。

SNS の種類	開始年月	フォロワー (昨年対比)	年間更新回数 (昨年対比)
Facebook（博物館）	2019 年 5 月	264 (108%)	27 (93%)
Twitter（博物館）	2020 年 5 月	1385 (118%)	32 (67%)
Twitter（付属園）	2020 年 5 月	7145 (126%)	384 (120%)

Instagram（付属園）	2020年5月	3126 (211%)	175 (186%)
----------------	---------	----------------	---------------

※令和6（2024）年3月末日時点

### (3) 年間行事チラシ印刷・配布（担当：岡本真緒）

紙媒体として、博物館における翌年度の年間行事予定の情報等を掲載するチラシを印刷（20,000部、A4判ヨコ両面カラー3折）した。また、当該年度に入り、前年度に印刷した年間行事チラシを適宜配布した。

なお、各催しの個別情報については、各担当から大町市の広報誌「広報おおまち」や子ども・親子向け情報誌「がつつうしん」（大町市子どもセンター編集・発行）によって市民や近隣地域住民向け、「情報提供書」によって市内・県内の各報道機関向けに情報発信を行ったほか、県内や全国の博物館関係誌や山岳関係誌等への情報発信を行うなどした。

### (4) 観光施設としての各種照会等の対応（担当：岡本真緒）

旅行案内雑誌等の観光施設を主とした記事掲載に関わる照会等について、情報提供や記事校正等の対応を随時行った。

## 5 大町博物館連絡会（担当：鈴木啓助・清水隆寿：～9月30日、千葉悟志：10月1日～）

大町博物館連絡会は加盟館11館で構成。例年、会長は大町エネルギー博物館長、事務所（事務局）は当館が担っている。

当館では同連絡会加盟館（理事：館長、幹事〈事務局員〉：職員）として理事会及び総会を準備・運営するとともに出席し、各種事業の企画立案・準備・実施に携わった。主な事業として、加盟館11館から会費、日帰り温泉施設9施設から掲載協力金、大町市観光協会から印刷負担金を収納して「おおまち博物館めぐり案内図（2023年版）」4万2500部を印刷作成。近隣のホテル・旅館・観光案内所等に配布したほか、大町市観光課・観光協会を通じて県外での観光PRイベントや旅行者・旅行業代理店業者向けの商談会などに提供し、誘客を図った。また、「おおまち博物館めぐりスタンプラリー」を4月1日から11月30日まで計画、実施をした。この取り組みは、各館への周遊誘客につなげることで大町市を“博物館のまち”として周知する方策として一定の成果があり、今後も継続していく方針である。

なお、本年度の連絡会総会及び理事会は、令和5年6月20日に山岳博物館講堂で開催、事業報告、会計監査報告、来年度事業計画及び予算などが開催された。

## 6 安曇野アートライン推進協議会 美術館・博物館部会

（担当：清水隆寿～9月30日、清水博文10月1日～）

安曇野アートライン推進協議会は、安曇野周辺の美術館・博物館等19館で構成。本年度、会長は大町市長、事務局は大町市教育委員会が担い（任期2年の2年目）、同協議会の実働を担う。

当館では同協議会加盟館（幹事：館長、部会担当：副館長）として幹事会及び総会、部会会議（年間6回）を開催した。「出張安曇野アートライン展 in 山岳博物館」。「第19回 安曇野アートライン展」の各催しに参画した。また第21回 安曇野アートラインサマースクールを開催した。併せてアートラインマップやサマースクールチラシの編集発行・配布にかかわる事務作業を実施した。加盟館の研修は、「松本市立博物館」の見学を行った。

## 7 大町山岳博物館友の会（担当：岡本真緒）

大町山岳博物館友の会は、会員の知識の向上をはかるとともに、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的とし、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加協力する団体である。

### (1) 組織

#### ①役員

- a. 会長 宮澤洋介
- b. 副会長 丸山優子

- c. 運営部 部長：川崎 晃  
 部員：川崎祐子（会計担当）、丸山卓哉（編集担当）、仙波美代子、若林みどり、西田 均、有川美保子、早川伸一、綿内教子
- d. 事務局 鈴木啓助、清水博文、清水隆寿（～9月30日）、千葉悟志、保科和弘、栗林勇太、㊦岡本真緒、竹村健一
- e. 監査 宮田京子、園田弘美
- f. 顧問 長沢正彦

②友の会会員 構成（令和5年3月31日 現在）

会員種別	令和5年度 会員数	会員種別	会員数	会員種別	会員数
ファミリー会員	52 家族（183 人）	個人会員	66 人	名誉会員	1 人
賛助会員	1 団体・1 人	終身会員	2 人		
合計	1 団体・253 人（前年度 2 人増）				

(2) 運営部

①運営部会 全10回開催（会場：山岳博物館 宿直室・講堂）

②行事（主催事業）

実施日	参加者	行事名・実施場所など
令和5年4月23日（日）	参加者数 31 名	大町山岳博物館友の会総会 於：博物館講堂 （担当：清水隆寿・岡本真緒）
令和5年7月9日（日）	募集人員 20 名 参加者数 17 名 参加率 85%	自然観察会 梅池自然園 （講師：千葉悟志）
令和5年10月14日（土）	募集人員 20 名 参加者数 17 名 参加率 85%	善光寺街道を歩いてみようⅢ （講師：清水隆寿）
令和5年11月5日（日）	募集人員 25 名 参加者数 15 名 参加率 60%	長野県立歴史館と森将軍塚古墳見学会
令和6年1月21日（日）	募集人員 15 名 参加者数 15 名 参加率 100%	そば打ち講習会

※参加者人数には、講師・スタッフを含む。

③協力（共催事業）

実施日	参加者	行事名・実施場所など
令和5年4月23日（日）	募集人員 30 名 参加者数 33 名 参加率 110%	山岳博物館友の会総会記念講演会 演題「虫の眼で見た大町・安曇野の自然」 講師：那須野雅好さん（三郷昆虫クラブ 世話人・安曇野オオルリシジミ保 護対策会議代表）
令和5年9月2日（土）	募集人員 150 名 参加者数 160 名 参加率 107%	山岳博物館友の会創立45周年記念行事 記念講演会 演題「山が教えてくれたこと」 講師：三戸呂拓也さん（登山家 大町市 出身）
令和5年9月3日（日）	募集人員 20 名 参加者数 22 名 参加率 110%	山岳博物館友の会創立45周年記念行事 記念登山「三戸呂拓也と行くフィールド ゼミナール 一鷹狩山トレッキング」

		案内：三戸呂拓也さん（同上） コーディネーター：大西浩さん（長野県山岳協会副会長）
--	--	--

### (3) 広報・宣伝

- ① 会報「ゆきつばき通信」による広報・宣伝活動
- ② 山岳博物館が作成する「年間催しのご案内」リーフレットや広報誌『山と博物館』、博物館の公式ウェブサイトを通じた広報・宣伝活動

### (4) 出版

#### 会報「ゆきつばき通信」

号数	発行日	主な内容
195号	令和5年5月21日（日）	(行事案内) 自然観察会 梅池自然園 (報告) 友の会総会、友の会総会記念講演会、アニマルトラッキング in 中山高原、ライチョウのこれからを考える、山のサイエンスカフェ in さんぱく 2023、烏帽子の会、ボランティアの会
196号	令和5年7月15日（土）	(行事案内) 友の会創立45周年記念行事 記念講演会、友の会創立45周年記念行事 記念登山 (報告) 自然観察会 梅池自然園 part1、ボランティアの会
197号	令和5年10月22日（日）	(案内) 友の会45周年記念品プレゼント (行事案内) 企画展「大町と絶滅動物」、企画展関連講演会 (報告) 自然観察会 梅池自然園 part2、友の会創立45周年記念行事 記念講演会、友の会創立45周年記念行事 記念登山、烏帽子の会、ボランティアの会、大町自然探検隊
198号	令和6年2月25日（日）	(行事案内) 友の会総会記念講演会、友の会総会、自然観察会 鷹狩山 小鳥の声を聞く会 (報告) 企画展関連講演会「ニホンオオカミを探し続けて50年」、善光寺街道を歩いてみようⅢ、長野県立歴史館と森將軍塚古墳見学会、そば打ち講習会、烏帽子の会、ボランティアの会

※その他、「お知らせ版」を臨時発行

### (5) サークル活動

#### ①烏帽子の会：28名（令和6年3月31日 現在）

活動日	内容	参加者
令和5年5月27日（土）	西山城址・サントリー工場・総会	21名
令和5年7月22日（土）	焼岳北峰 2393m（松本市）	10名
令和5年9月23日（土）	水木沢自然林（木祖村）	15名
令和5年11月11日（土）	日向山 1660m（山梨県北杜市）	12名
令和6年2月3日（土）	黒川城址スノーシュー（小谷村）	12名
令和6年4月12日（金）	高社山 1351.5m（中野市）	15名

#### ②ボランティアの会：29名（令和6年3月31日 現在）

項目	活動日	内容	参加者
環境整備	令和5年4月16日～12月17日	博物館周辺の環境整備 (除雪含む)	延べ
	延べ11回（封入実施4回）		92名
封入	令和5年4月30日～3月24日	「山と博物館」「ゆきつばき通信」 その他博物館発行の資料等	延べ
	延べ5回		47名
野外整備	令和5年4月16日	居谷里湿原遊歩道整備	14名
	令和5年7月24日	鷹狩山登山道整備	4名
博物館事	令和5年5月2日～5月6日	「付属園まつり」受付 ライチョウ・館内ガイド	延べ 23名

業 協 力	令和5年10月22日	観察会サポート	1名
	令和5年11月11日	山博ゼミナール受付	延べ
	令和6年3月3日・10日	サイエンスカフェ受付	7名
研 修	令和5年6月25日	「十日町市立里山科学館」	21名
	令和6年1月28日	松本市立博物館	17名

③花めぐり紀行：7名（令和6年3月31日現在）

活動日	内容	参加者
令和5年4月～令和6年3月	植物さく葉標本づくり	延べ24名
令和5年5月～令和5年7月	高山植物の植え替え	延べ9名

④ 山岳文化研究会：6名（令和6年3月31日現在）

令和5年度は個人での山岳文化の調査・収集を行い、会としての活動は行っていない。一昨年、榎海(つがみ)新道を歩く計画を立てたが、実現できていない。

## 8 ライチョウ会議（担当：栗林勇太）

### (1) ライチョウ会議

ライチョウ会議（議長：信州大学 中村浩志特任教授）は、日本アルプスとその周辺に生息するライチョウに関する情報交換と、調査及び研究の連携を図ること、ライチョウに関する知識の普及と啓発を行うことを目的として設置された組織である。当館はその事務局を議長より委嘱されており、会議の運営にあたる事務連絡、諸経費の管理を行っている。

### (2) 第21回ライチョウ会議静岡大会

ライチョウ会議大会は、大会開催地の関係者を中心に実行委員会を組織して1～2年に1回開催している。令和6年度に、静岡市において第21回ライチョウ会議静岡大会を開催することが決定した。当館職員は実行委員として実行委員会に出席し、会議の内容等について検討を行った。

## 9 長野県山岳総合センターとの連携事業

令和5年度は以下の事業を連携して実施した。

### (1) バードウォッチング「たかがり山で、鳥さんみつけ！」（担当：栗林勇太）

- a. 主 催：長野県山岳総合センター
- b. 協 力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和5年5月13日（土）6：00～8：00
- d. 場 所：長野県山岳総合センター、大町公園周辺
- e. 参加者：20人
- f. 概 要：早朝から大町公園～鷹狩山中腹までを往復し、バードウォッチングを行った。子供の参加が多く見られ、24種類の鳥を確認できた。

### (2) わくわくチャレンジ教室「夜の虫をかんさつしよう」（担当：清水博文）

- a. 主 催：長野県山岳総合センター
- b. 協 力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和5年7月27日（木）19：00～21：00
- d. 場 所：長野県山岳総合センター、大町公園周辺
- e. 参加者：28人
- f. 概 要：はじめに県山岳総合センターで昆虫クイズを行い、虫の特徴について学んだ後、大町公園周辺で、エゾゼミの羽化の観察のほか、地上を歩行する昆虫などにはベイトトラップを、光に集まる昆虫にはライトトラップを用い、身近な昆虫を観察した。

(3) 信州の昆虫を食べよう！！（担当：栗林勇太）

内容はⅢ教育普及事業③企画展「大町と絶滅動物」関連イベントの記載に同じ。

## IV 動植物飼育栽培繁殖事業

### 1 動物飼育繁殖（担当：栗林勇太・岡本真緒・唐澤紗波・辰己萌恵・渡邊咲晴・瀧沢有純）

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やし、研究をしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見ていただくという考え方を大切に、以下の基本方針を定めている（平成24年度策定）。

- 生体展示・・・生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
- 教育普及への活用・・・飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。
- 傷病鳥獣の救護・・・傷ついたり病気になったりした野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。
- 希少種の保護・・・希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。
- 施設整備の充実・・・付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

当館の基本理念と上記の基本方針に基づき、付属園（動植物園）では、希少野生動物繁殖事業、アルプス動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（受託事業）を実施し、それら事業に関わり動物飼育繁殖事業を含む博物館事業（資料収集保管事業、調査研究事業、教育普及事業）を行っている。

現在、希少野生動物繁殖事業ではニホンカモシカとライチョウを飼育し、野生傷病鳥獣救護事業では大町市周辺で救護された野生動物を飼育している。なお、アルプス動物園友好提携事業での交換動物は現在飼育していない。

#### 飼育動物（令和6年3月31日現在）

（単位：個体）

種名(哺乳類)	雄	雌	不明	計	種名(鳥類)	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	2	1		3	トビ			8(8)	8(8)
ハクビシン	1(1)	1(1)		2(2)	フクロウ			1(1)	1(1)
タヌキ	1				チョウゲンボウ	1(1)			1(1)
					キジバト			1(1)	1(1)
					スバールバル ライチョウ	1			1
					ライチョウ	4	3		7
計	4(1)	3(1)		5(2)	計	6(1)	4	10(10)	19(11)

・哺乳類 3(1)種・6(1)個体

・鳥類 6(4)種・19(11)個体

合計 9(5)種・25(12)個体

※括弧内の数は救護動物の種数・個体数

※他園へブリーディングローン中の個体は含まれない

#### (1) 希少野生動物繁殖

当館ではニホンカモシカ、ライチョウ、イヌワシなどの希少野生動物の繁殖に取り組んできた経緯がある。平成28年度よりライチョウの飼育を再開し、同年に乗鞍岳で採卵した卵の孵化と育雛に取り組んだ。以後、毎年繁殖の取り組みを行い、令和4年度はライチョウ及びスバールバルライチョウの繁殖に取り組んだ。

ニホンカモシカについては、当館で飼育中の個体の繁殖は行っていないが、将来的に繁殖を行うことを目指している。長野市茶臼山動物園及び横浜市金沢動物園にブリーディングローンで貸し出し中のオスについては、現在繁殖の取り組みが行われている。

①ニホンカモシカ

a. 出生・導入個体

なし

b. 死亡個体

なし

c. 転出個体

なし

d. 今後の計画

飼育個体が老齢となっていることから、展示個体の維持と将来的な繁殖を視野にいれ、令和4年度に引き取りをしたオスのペアになるメスの導入を検討している。

②ライチョウ

a. 概要

環境省主導の中央アルプス野生復帰事業への協力として、ニホンライチョウ（以下、ライチョウ）の人工繁殖と、産まれた個体への腸内細菌叢構築試験を行う予定で取り組んだ。結果、産卵は見られたものの、孵化・育雛には至らなかった。

b. 繁殖

本年度は、環境省主導の中央アルプス野生復帰事業に参画し、その事業の一環として人工孵化・育雛したヒナの野生型腸内細菌叢構築試験を実施することを計画していた。この試験は、人工育雛するヒナに野生由来のライチョウの細菌（菌末）を与え、同時に高山植物を給餌することで、野生のライチョウと同じ腸内細菌叢を獲得することが可能であるかを確認するものであった。繁殖方法としては、ニホンライチョウ（以下ライチョウ）のつがいを2ペア形成し、10卵を孵卵することを予定していたが、1つがいのメスが産卵期に死亡し、結果1ペアから10卵採卵し、人工孵卵をすることとなった。

結果としては、孵卵時の検卵で発生が確認できず、育雛には至らなかった。

c. 死亡個体

・本年度はメス2羽の死亡があった。死因に関しては、日本獣医生命科学大学において病理解剖及び病理検査を行った。いずれも決定的な要因は解明できなかったが、N21はこれまでの当館の飼育記録では最高齢であったため、老齢により産卵期に体力を消耗したことが要因と考えられた。

死亡日	血統登録番号 (LocalID)	雌雄	年齢	死因
令和5年7月16日	N21 (No.10)	雌	7歳	老齢のため
令和5年11月28日	N30 (0-01)	雌	6歳	不明

d. 転出個体

・国内の飼育園館における次年度繁殖に向けて、計画管理者の策定した繁殖計画に基づいて移動を行った。

転出日	血統登録番号 (LocalID)	雌雄	年齢	移動先
令和6年2月7日	N77 (0-1911)	雄	4歳	恩賜上野動物園

e. 転入個体

・次年度当館での繁殖に供するため、計画管理者の策定した繁殖計画に基づいて移動を行った。

転入日	血統登録番号 (LocalID)	雌雄	年齢	移動元
令和6年1月30日	N118 (0-2106)	雌	2歳	富山市ファミリーパーク
令和6年2月8日	N44 (T-1804)	雄	5歳	横浜市繁殖センター

(2) 希少野生動物繁殖以外の飼育動物の増減

譲渡や受け入れ、死亡等により下記の動物の増減があった。

月・日	種名	雌雄	記号・愛称	事由 (移動先もしくは移動元)
令和5年8月24日	タヌキ	雄	おしお	譲受 (アクアマリンふくしま)
令和6年1月16日	スバルバルライチョウ	雄	ギンガ	譲渡 (恩師上野動物園)
令和6年1月17日	スバルバルライチョウ	雄	ステラ	譲受 (恩師上野動物園)
令和6年2月21日	スバルバルライチョウ	雄	スバル	譲渡 (横浜市繁殖センター)

付属園整備計画の中で飼育が決まっているタヌキの導入を行った。近年飼育個体の減少が相次ぎ、空きの獣舎が目立つようになったことや、職員の交代があり、タヌキの飼育経験のある職員の技術継承の観点から導入をすることが決定した。

スパールバルライチョウは、同種の計画管理者の指示のもと移動を行った。

### (3) 傷病鳥獣救護

傷病鳥獣救護については、昭和 28 年頃の付属園併設以降、野生動物の保護や近隣住民への教育的配慮の観点から独自に行ってきたが、平成 9 年度からは長野県の指導を受けて行うようになり、平成 17 年度からは長野県の野生傷病鳥獣救護事業委託の受託によって行っており、現在、大北地域における野生傷病鳥獣救護施設としてケガや病気の野生動物を収容している。

しかし、近年のライチョウの飼育再開に伴い、防疫上の観点や関係法令等に基づいた適切な対応を考慮し、平成 27 年度以降、傷病鳥獣の新規受け入れを行っていない。なお、平成 26 年度までに収容された傷病鳥獣については引き続き保護・飼養を行い、救護事業への寄与を継続して行っている。

## 2 植物栽培繁殖 (担当：千葉悟志)

### (1) 栽培植物

#### ①栽培植物の増減

増：なし

減：ウサギギク、ハクサンコザクラ、ムカゴトラノオ、ウラジロナナカマド、イワギキョウ、キバナノコマノツメ

#### ② 栽培植物

アズミノヘラオモダカ (長野県絶滅危惧 I A 類)、トガクシソウ (長野県絶滅危惧 I A 類)、ビッチュウフウロ (長野県絶滅危惧 I B 類)、サクラソウ (長野県絶滅危惧 II 類、長野県希少野生植物指定種)、トキシソウ (絶滅危惧 II 類)、ササユリ (長野県準絶滅危惧・長野県指定希少野生植物指定種)、カキツバタ (長野県準絶滅危惧)、フクジュソウ (長野県準絶滅危惧)、コオニユリ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、ミズバショウ、リュウキンカ、サワギキョウ、モウセンゴケ、コマクサ、オヤマリンドウ、ハクサンフウロ、ミヤマセンキュウ、クロトウヒレン、ヤマガラシ、ウスユキソウ、トウキ、ミヤマオトコヨモギ、ミヤマダイコンソウ、ヤマブキショウマ、コケモモ、クロユリ、ガンコウラン、クロマメノキ、ハクサンボウフウ、チングルマ、タカネナナカマド、クロウスゴ、ベニバナイチゴ、ミツバオウレン、ホンドミヤマネズ、オンタデ、ズダヤクシュ、イブキトラノオ、タカネマツムシソウ、ハクサンタイゲキ、カライトソウ、イワオウギ、ミヤマクワガタ、ミソガワソウ、ミヤマセンキュウ、ゼンテイカ、タテヤマウツボグサ、ゴゼンタチバナ、エゾスグリ、コメススキ、ハクサンシャクナゲ、ハイマツ、シナノオトギリ、アキギリ、アラシグサ、クロクモソウ、イワベンケイ、チョウジギク、ハクサンオミナエシ、ユキワリソウ、カニコウモリ、ヒメクワガタ、ノコンギク、ノハナショウブ、シコタンハコベ、コウリンカ、シラタマノキ

#### a. 栽培の状況

4 月より付属園においてスパールバルライチョウ舎付近に高山植物エリア (約 16 m<sup>2</sup>) を拡大した。移植後、順調に育っていることから、定着したと思われる。今後も種数を増やしながら付属園において来館者が観察できる環境を整えていきたい。

## 3 付属園整備 (担当：清水博文、動物：栗林勇太・岡本真緒、植物：千葉悟志)

### (1) 付属園整備構想の計画見直しについて

#### ①経過と方針

博物館付属園整備構想及び計画については、平成 25 年度に一度作成しているところであるが、その後に行われたライチョウ舎の増設工事との整合性を図るため、ライチョウ舎以外の整備計画作成に着手すべく、平成 30 年度において大町市教育委員会、大町市社会教育委員会、市立大町山岳博物館協議会、大町山岳博物館友の会 (役員対象) に意見聴取をさせていただき、この結果を踏まえて館内において協議を重ねてきた。

現行構想においては「市民に愛される付属園」とされ、付属園が今日まで市民や観光客に親しまれ

てきた経過を考慮すると、整備構想の見直しに際し、ライチョウとカモシカ以外の動物の飼育も視野に、どの程度の動物飼育（種類・飼育数）が当館の施設規模や組織体制に即して適正であるのか、さらには財政的に投資に見合う施設整備か等、慎重に協議を進めた。なお、付属園だけでなく大町公園、東山観光の中での位置づけを考え関係機関などと調整を進めていくこととなった。

## ②構想を実現化していく上での主な課題点

- ・カモシカの飼育繁殖のための施設形態と適正規模を検討。
- ・導入動物の種類選定にあたって、飼育や繁殖計画の策定、施設規模や施設内容等について（動物エンリッチメントへの配慮、繁殖の可否、入手方法、業務量の検討）。
- ・イヌワシ舎については、撤去の方針で検討を進める。
- ・コレクションプランについての調査研究と導入。
- ・予算規模（投資規模や年間のランニングコスト）とスタッフ体制の検討。
- ・付属園設置要綱等が未整備なため、整備構想・見直しの基盤が定まらない状況（付属園設置要綱を構想・計画の見直しに合わせ策定）。
- ・ライチョウ、カモシカを主体とした施設規模等に応じた飼育可能な導入動物の適正な飼育繁殖方法等の検討。
- ・新たな付属園構想には高山植物や岩石・鉱物の展示、学習や滞留空間、憩いの場の創出のための検討を行っているが、更に具体案の検討を進める。

以上、主だった課題点を列挙したが、これらの課題解決を図りながら、実施計画の策定を行う。

## 4 公益社団法人日本動物園水族館協会（担当：鈴木啓助・栗林勇太・岡本真緒）

公益社団法人日本動物園水族館協会（略称：日動水、JAZA）は、国際的な視野に立って、自然や貴重な動物を保護するためにできた国内の動物園や水族館の組織。日本全体の視野に立って、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」という4つの目的を中心に、単独の園館ではできないことを協力して行っており、当館では付属園で動物を飼育していることから、同協会へ加盟している。

本年度は随時、各種調査への報告等を行ったほか、新型コロナウイルスによる影響が落ち着いてきたことから、各種会議・研修への出席参加なども行った。

## V その他

### 1 各種委員等の委嘱他

ライチョウ会議 事務局（栗林勇太）

第21回ライチョウ会議静岡大会 実行委員会（栗林勇太）

日本動物園水族館協会生物多様性委員会 ライチョウ専門技術員（栗林勇太）

全国山岳博物館等連絡会議（清水隆寿～9月30日、清水博文10月1日～）

長野県博物館協議会 監事（鈴木啓助）

高山植物等保護対策協議会 中信地区会員（鈴木啓助）

安曇野アートライン推進協議会 幹事（鈴木啓助）部会担当（清水隆寿～9月30日、清水博文10月1日～）

大北地区野生鳥獣保護管理対策協議会 委員（鈴木啓助）

北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会 参与（鈴木啓助）

長野県科学振興会大町支部 理事（清水博文）

大町桜まつり実行委員会 委員（鈴木啓助）（代理：清水隆寿～9月30日、清水博文10月1日～）

針ノ木岳慎太郎祭実行委員会 副大会長（鈴木啓助）

美術展ベストセレクション in 信濃大町実行委員会選考委員（清水博文）

大町博物館連絡会 幹事（清水隆寿～9月30日、10月1日～千葉悟志）

大町博物館連絡会 代表 大町市青少年育成協議会 理事（清水隆寿～9月30日、10月1日～千葉悟志）

北アルプス雪形まつり実行委員会 実行委員（清水隆寿～9月30日）

## 2 アルプス動物園との友好提携協定の締結

昭和60年2月18日、オーストリア・インスブルック市のアルプス動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。

「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）平成27年4月8日、友好提携30周年を記念し、友好提携再締結をした。

## 3 信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結

平成17年7月5日、信州大学山岳科学総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。

「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

## 4 長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結

平成26年3月25日、長野県環境保全研究所と当館は、次のような目的による連携・協力に関する協定について締結をした。

「長野県を特徴づける山岳域の自然とその環境保全にかかわる諸課題の解明や解決に力をあわせて取り組むことが、学術振興や自然環境保全、そして地域の発展に重要な役割を果たすことを深く認識し、両機関が、調査研究・教育普及・人材育成等、相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具体的な連携・協力を効果的に実施することにより、学術の振興及び自然環境保全に寄与するとともに、地域の発展に貢献することを目的として連携・協力に関する協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

なお連携協定の有効期間は、締結日から5年間と定められていることから、あらためて、相互に協定書を交わし、平成31年4月1日に再締結を行った。有効期間は、令和6年3月31日までの5年間とした。

## 5 ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結

平成27年6月18日、公益財団法人富山市ファミリーパーク公社と当館は、次のような目的による連携に関する協定について締結をした。

「ニホンライチョウは国の特別天然記念物にも指定されている日本を代表する鳥類であるが、近年は絶滅が危惧され、国の保護増殖事業計画種にも指定されている。両園館は互いに隣接する、ニホンライチョウの生息地に所在する園館として、ニホンライチョウの保護増殖を目的に、ライチョウ類の飼育繁殖技術の連携に関する協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

## 6 「梅棹忠夫・山と探検文学賞」授賞式への出席

この賞は、平成22年5月に「梅棹忠夫・山と探検文学賞」委員会によって創設されたもので、大町市へ贈呈された毎回の授賞作品を当館で山岳図書資料として収蔵している。今年度も同委員会主催によって、令和5年7月24日に第12回同賞授賞式が信濃毎日新聞社長野本社講堂で開催され、来賓として招待を受けた大町市長が出席して祝辞を述べた。

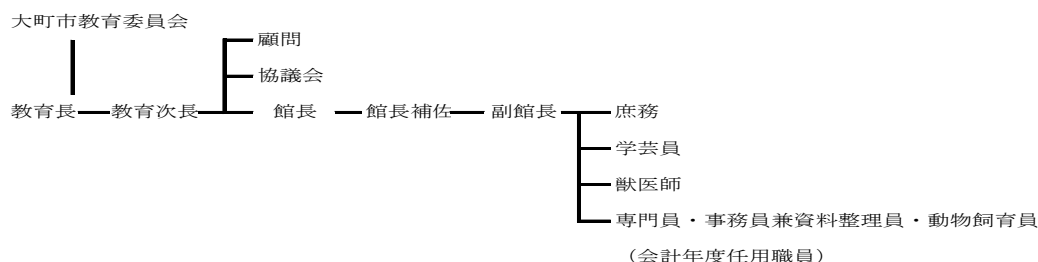
これまでの「梅棹忠夫・山と探検文学賞」受賞作品は以下の通り。

- 第1回（平成24年度） 角幡唯介『空白の五マイル』（集英社）
- 第2回（平成25年度） 中村 保『最後の辺境 チベットのアルプス』（山と溪谷社）
- 第3回（平成26年度） 高野秀行『謎の独立国家 ソマリランド』（本の雑誌社）
- 第4回（平成27年度） 中村 哲『天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い』（NHK 出版）
- 第5回（平成28年度） 服部文祥『ツンドラ・サバイバル』（みすず書房）
- 第6回（平成29年度） 中村逸郎『シベリア最深紀行 知られざる大地への七つの旅』（岩波書店）
- 第7回（平成30年度） 大竹英洋『そして、ぼくは旅に出た。はじまりの森ノースウッズ』（あすなる書房）
- 第8回（令和元年度） 佐藤 優『十五の夏（上・下）』（幻冬舎）
- 第9回（令和2年度） 萩田泰永『考える脚』（KADOKAWA）
- 第10回（令和3年度） 小野和子『あいたくて ききたくて 旅にでる』（PUMPQUAKES）
- 第11回（令和4年度） 川瀬 慈『エチオピア高原の吟遊詩人 一うたに生きる者たち―』（音楽之友社）
- 第12回（令和5年度） 神長幹雄ほか『日本人とエベレスト 一植村直己から栗城史多まで―』（山と溪谷社）

## VI 運営

### 1 組織および職員構成

#### (1) 組織



#### (2) 顧問

小坂共栄（平成28年3月1日～） 宮野典夫（令和2年4月1日～）

#### (3) 協議会委員

学校教育および社会教育の関係者：宮澤忠利、宮澤洋介

家庭教育の向上に資する活動を行う者：松原 亨、赤坂隆宏

学識経験のある者：岡田忠興、村越直美、佐藤悟、須賀 丈、菊原昭一、須田哲、丸山祥子

#### (4) 職員

##### ①配置

館 長 鈴木啓助

館長補佐 清水博文（兼副館長）

副 館 長 清水隆寿（人文科学系学芸担当兼庶務～9月30日）

庶 務 保科和弘（10月1日～）

学 芸 員 千葉悟志（自然科学系植物担当）

栗林勇太（自然科学系動物担当）、岡本真緒（自然科学系動物担当）

専 門 員※ 竹村健一（自然科学系地質担当）

獣 医 師 横沢 豊（令和2年3月1日～ 非常勤）

事務員兼資料整理員※ 家城良好・降籬秀子

動物飼育員※ 唐澤沙波・辰己萌恵・渡邊咲晴・瀧沢有純 ※会計年度任用職員

##### ②人事異動

転 入 学 芸 員 岡本真緒（令和5年4月1日 新規採用）

専 門 員 竹村健一（令和5年4月1日 新規採用）

動物飼育員 瀧沢有純（令和5年4月1日 新規採用）  
庶務 保科和弘（令和5年10月1日 建設課維持管理係より）  
転出副館長 清水隆寿（令和5年10月1日 生涯学習課文化財センターへ）

## 2 市立大町山岳博物館協議会

協議委員任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日〔任期：2年間〕

協議委員名簿：宮澤忠利（学校教育関係者）  
宮澤洋介（社会教育関係者） ※協議会会長  
松原 亨（家庭教育活動者）  
赤坂隆宏（家庭教育活動者）  
岡田忠興（学識経験者） ※協議会副会長  
村越直美（学識経験者）  
佐藤 悟（学識経験者）  
須賀 丈（学識経験者）  
菊原昭一（学識経験者）  
須田 哲（学識経験者）  
丸山祥子（学識経験者）

### （1）第1回協議会

①日 時：令和5年8月28日 午前10時～午前11時

②場 所：山岳博物館 講堂

③出席者：宮澤洋介、岡田忠興、宮澤忠利、松原亨、赤坂隆宏、村越直美、須賀丈、菊原昭一、  
須田哲、丸山祥子  
中村一郎、鈴木啓助、清水博文、清水隆寿、千葉悟志、栗林勇太、岡本真緒、竹村健一

④内 容：・報告

令和4年度事業について

令和5年度事業の進捗について

博物館本館屋根及び外壁塗装等修繕工事について

ライチョウ飼育事業について

市立大町山岳博物館規則の一部を改正する規則について

7・8月の博物館の月曜休館の検討について

・協議

付属園の整備構想について

タヌキの導入について

### （2）第2回協議会

①日 時：令和6年3月13日 午後1時30分～午後3時

②場 所：山岳博物館 講堂

③出席者：宮澤洋介、岡田忠興、宮澤忠利、松原亨、赤坂隆宏、村越直美、佐藤悟、菊原昭一、  
須田哲  
中村一郎、鈴木啓助、清水博文、保科和弘、千葉悟志、栗林勇太、岡本真緒、竹村健一

④内 容：・報告

令和5年度事業の進捗

ライチョウ保護事業について

その他の事業について

入館者状況について

博物館の空調設備について

令和6年度事業の概要について

新年度事業及び予算について

ライチョウ飼育事業について

- ・協議  
博物館と付属園の休館日について
- ・その他  
令和6・7年度の協議会委員について

### 3 入館者状況

#### (1) 過去の入館者状況

年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般 減免	市内		小計	
	大人	高校 生	小中 生	大人	高校 生	小中 生			65歳 以上	小中 生		
S26	291		100	21		77	489					489
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147					5,147
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092					13,092
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424					11,424
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885					10,885
31	2,148		888	1,036		858	4,930					4,930
32	1,934		658	826		1,880	5,298					5,298
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897					7,897
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113					7,113
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599					8,599
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163					10,163
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243					14,243
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893					15,893
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242					26,242
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560					25,560
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680					26,680
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900					25,900
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538					41,538
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967					32,967
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929					30,929
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326					39,326
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670					40,670
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373					58,373
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254					62,254
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692					67,692
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603					70,603
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700					54,700
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129					64,129
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943					63,943
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038					57,038
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132					65,132
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965	70,215
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026	86,416
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117	82,384
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770	99,866
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509	86,678
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605	86,238

63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269	84,925	
H1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709	80,744	
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844	82,798	
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577	86,477	
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413	73,824	
年 度	有料入館者							無料入館者					合 計
	個人			団体			小計	一般 減免	市内		小計		
	大人	高校	小中	大人	高校	小中			65歳 以上	小中 生			
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587	75,766	
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376	64,939	
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376	63,860	
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174	53,984	
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,133	1,429			1,429	47,562	
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686	42,440	
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206	34,618	
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187	34,059	
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710	35,013	
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655	28,399	
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891	28,322	
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317	21,551	
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599	19,265	
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675	23,363	
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874	17,572	
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	2,325	18,515	
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	348	1,655	17,942	
22	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	203	1,274	15,147	
23	12,376	127	855	2,963	328	1,396	18,045	2,023	146	819	2,988	21,033	
24	9,827	114	640	2,335	498	587	14,001	1,294	94	783	2,171	16,172	
25	7,550	97	522	2,008	142	353	10,672	919	162	409	1,490	12,162	
26	12,249	120	892	3,146	655	370	17,432	2,450	422	615	3,487	20,919	
27	10,427	101	795	2,729	444	610	15,106	2,350	214	572	3,136	18,242	
28	9,774	98	709	2,442	433	540	13,996	2,008	127	759	2,894	16,890	
29	10,210	77	735	3,084	230	1,176	15,512	2,477	217	486	3,180	18,692	
30	10,795	79	840	2,895	245	826	15,680	2,878	117	422	3,417	19,097	
R1	11,459	115	1,070	3,305	247	391	16,587	2,882	84	328	3,294	19,881	
2	4,734	74	508	3,670	58	599	9,643	1,996	111	445	2,552	12,195	
3	6,247	73	735	2,817	126	801	10,799	2,797	102	374	3,273	14,072	
4	9,762	114	1,004	5,253	528	1,136	17,797	2,840	158	512	3,510	21,307	
5	10,377	115	866	5,137	143	794	17,432	2,792	130	406	3,328	20,760	
累計	1,392,472	20,673	201,055	632,301	87,465	288,667	2,622,633	124,195	3,798	12,527	140,520	2,763,153	

(2) 令和5年度の入館者状況

月	有料入館者							無料入館者				小計	合計
	個人			団体			小計	一般 減免	市内				
	大人	高校	小中生	大人	高校	小中生			65歳 以上	小中 高生			
4	952	13	41	421	2	31	1,460	219	13	20	252	1,712	

5	1,289	16	117	576	5	113	2,116	346	13	11	370	2,486
6	672	7	18	341	111	13	1,162	201	19	142	362	1,524
7	1,251	11	149	655	3	200	2,269	287	5	43	335	2,604
8	1,661	38	268	740	9	167	2,883	390	14	7	411	3,294
9	887	5	22	433	0	102	1,449	196	5	8	209	1,658
10	1,217	7	43	794	4	32	2,097	329	18	11	358	2,455
11	751	0	48	321	4	29	1,153	151	10	81	242	1,395
12	354	1	42	159	1	19	576	140	3	4	147	723
1	361	4	25	179	0	14	583	148	9	13	170	753
2	439	7	28	246	2	17	739	112	13	60	185	924
3	543	6	65	272	2	57	945	273	8	6	287	1,232
計	10,377	115	866	5,137	143	794	17,432	2,792	130	406	3,328	20,760
前年	9,762	114	1,004	5,253	528	1,136	17,797	2,840	158	512	3,510	21,307
前年度比	106.3%	100.9%	86.3%	97.8%	27.1%	69.9%	97.9%	98.3%	82.3%	79.3%	94.8%	97.4%

### (3) 令和5年度の開館日数

全 317 日

※通常であれば318日の開館予定であったところ、暖房用ボイラー不完全燃焼による火災があり、1月4日(木)は臨時休館の対応をとった。

## 4 令和5年度予算・決算

### (1) 歳入

(単位：円)

項目	観覧料	県委託金 (傷病鳥獣救護)	寄附金	雑入	合計
当初予算額(A)	6,321,000	120,000	0	242,000	6,683,000
決算額(B)	7,093,676	132,000	331,203	821,850	8,378,729
比較(B-A)	772,676	12,000	331,202	579,850	1,695,729

### (2) 歳出

(単位：円)

項目	一般職員 人件費	管理運営 一般経費	教育普及 事業	調査研究 事業	資料収集 保管事業
当初予算額(A)	40,858,000	41,230,000	3,913,000	162,000	607,000
決算額(B)	39,343,055	40,578,074	3,095,389	127,015	410,237
比較(B-A)	△1,514,945	△651,926	△817,611	△34,985	△196,763
項目	動植物飼育 栽培事業	ライチョウ飼育 事業	付属園整備 事業		合計
当初予算額(A)	2,053,000	2,747,000	568,000		92,138,000
決算額(B)	1,716,532	1,838,010	507,100		87,615,412
比較(B-A)	△336,468	△908,990	△60,900		△4,522,588

## 5 ミュージアムカフェ・ショップ (担当：清水博文)

大町山岳博物館では、博物館を利用する来館者及び大町公園や東山へのトレッキングなどの利用者への利便性の向上を図ることを目的に、館内にミュージアムカフェ・ショップを設置し、飲食物の提供や商品の販売を行っている。運営にあたっては、事業者を公募し営業を行っている。

平成6年7月1日から平成25年11月4日にかけては、大町山岳博物館友の会による運営で喫茶・

売店「こまくさ」として営業を行っていただいた。

平成26年4月からは新規に運営者を公募し、山内優氏によるミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」が運営にあたっていたが、行政財産使用期限が令和5年3月31日をもって終了した。新規公募を募り運営者の選定を行った結果、令和5年4月1日から「イイココ・インキュベーション合同会社」と契約を結んでいる。契約期間は令和5年4月1日～令和6年3月31日（3年間まで更新可能）。

**(1) 令和5年度運営者**

- ・氏名：イイココ・インキュベーション合同会社
- ・名称：ミュージアムカフェ・ショップ「c a f eかもしか」

**(2) 契約期間**

- ・令和5年4月1日～令和6年3月31日まで〔1年間〕

**(3) 令和6年度以降の運営体制について**

- ・令和6年4月1日～令和7年3月31日についても、現在の運営者から行政財産の使用許可申請が提出され、令和5年度に引き続き運営を行っていただくこととなった。

## Ⅶ 関係条例規則等

### 1 市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日

条例第 12 号

改正 昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号

平成元年 3 月 24 日条例第 7 号

平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号

平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号

平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号

平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号

平成 17 年 12 月 6 日条例第 80 号

平成 24 年 3 月 26 日条例第 3 号

平成 26 年 3 月 28 日条例第 8 号

平成 29 年 3 月 15 日条例第 7 号

令和元年 12 月 23 日条例第 32 号

令和 5 年 3 月 20 日条例第 10 号

市立大町山岳博物館条例(昭和 29 年条例第 18 号)の全部を改正する。

(目的)

第 1 条 この条例は、山岳文化の振興及び活用並びに自然環境の保全及び共生を図るため、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理について必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第 2 条 山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

(名称及び位置)

第 3 条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館 大町市大町 8056 番地 1

(職員)

第 4 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 4 条の規定により、館長、学芸員その他必要な職員を置く。

2 博物館に必要な応じ顧問を置くことができる。

(観覧料)

第 5 条 博物館を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 小学校就学の始期に達するまでの者

(2) 大町市立学校に在学する児童又は生徒

(3) 市内に住所を有する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づく高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部その他これらに準ずる学校に在学する者をいう。以下同じ。)

(4) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

(観覧料の減免)

第 6 条 教育委員会は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(賠償責任)

第 8 条 故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

(博物館協議会)

第 9 条 博物館法第 25 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という。)を設置

する。

2 協議会の委員(以下「委員」という。)は15人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験のある者
- (4) 公募による市民等

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

#### 附 則

1 この条例は、昭和57年6月5日から施行する。

2 この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例(昭和29年条例第18号)第5条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第10条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第3項の規定にかかわらず、昭和58年3月31日までとする。

附 則(昭和61年3月24日条例第8号)

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成元年3月24日条例第7号)

この条例は、平成元年4月1日から施行する。

附 則(平成4年3月31日条例第8号)

この条例は、平成4年4月1日から施行する。

附 則(平成5年12月24日条例第32号)

この条例は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成12年3月29日条例第13号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成13年3月27日条例第13号)

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成17年12月6日条例第80号)

この条例は、平成18年1月1日から施行する。

附 則(平成24年3月26日条例第3号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月28日条例第8号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月15日条例第7号抄)

(施工期日)

1 この条例は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(令和元年12月23日条例第32号)

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月20日条例第10号)

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表(第5条関係)

種 別	区 分	単 位	観 覧 料
一般	大人	1人	450円
	高校生	〃	350円
	小人	〃	200円
団体 (30人以上の場合をいう)	大人	〃	400円
	高校生	〃	300円
	小人	〃	150円

備考 特別の資料を展示する場合は、1,000円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

## 2 市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日  
教育委員会規則第 3 号

改正 平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号  
平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号  
平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号  
令和 4 年 3 月 31 日教委規則第 5 号  
令和 5 年 3 月 28 日教委規則第 2 号  
令和 5 年 8 月 25 日教委規則第 7 号  
令和 6 年 3 月 25 日教委規則第 4 号

(趣旨)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例(昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という。)の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という。)の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第 2 条 館長は、上司の命を受け、博物館を統括し、所属職員を指揮監督する。

2 博物館に、必要に応じ名誉館長を置くことができる。

3 名誉館長は、上司の命を受け、博物館の調査研究事業を統括し、学芸員を指揮監督する。

4 学芸員は、館長又は名誉館長の命を受け、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。

5 その他の職員は、館長又は名誉館長の命を受け、職務を遂行する。

6 館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、課長補佐又は係長相当職をもって充てる。

7 顧問は、館長又は名誉館長の求めに応じ、博物館の企画及び運営並びに学術的な助言を行うものとする。

(休館日)

第 3 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

(1) 毎週月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日の翌日(この日が月曜日に当たるときは、その翌日)

(3) 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日(前号に掲げる日を除く。)

(開館時間)

第 4 条 博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の交付)

第 5 条 条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券を交付するものとする。

(観覧料の減免)

第 6 条 条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、市立大町山岳博物館観覧料減免申請書(様式第 1 号)を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

(博物館資料の利用等)

第 7 条 条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書(様式第 2 号)を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

2 前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認められた場合は、延長することができる。

(入館制限等)

第 8 条 教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

- (2) 管理上支障があると認められるとき。
- (3) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第9条 博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。この場合において、資料を寄贈及び寄託しようとする者は、市立大町山岳博物館資料寄贈・寄託書(様式第3号)を教育委員会に提出するものとする。

- 2 寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。
- 3 博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。
- 4 寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。

(資料等の滅失・損傷)

第10条 館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

(協議会の組織)

第11条 協議会に、委員の互選による会長及び副会長各1名を置く。

- 2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

(協議会の会議)

第12条 協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

#### 附 則

- 1 この規則は、昭和57年6月5日から施行する。
- 2 市立大町山岳博物館規程(昭和29年教育委員会規則第9号)及び市立大町山岳博物館協議会規程(昭和29年山岳博物館規程第1号)は、廃止する。

附 則(平成元年3月31日教委規則第3号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則(平成9年12月26日教委規則第3号)

この規則は、平成10年1月1日から施行する。

附 則(平成12年3月30日教委規則第9号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(令和4年3月31日教委規則第5号)

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月28日教委規則第2号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則(令和5年8月25日教委規則第7号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則(令和6年3月25日教委規則第4号)

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

分類 番号	公開・ 非公開区分	公開・非公開 一部公開		担当者	係長	課長補佐	館長	教育次長	教育長	可・ 否
		保存区分								
非公開(一部公開)とす る部分・理由			公開可能時期							

市立大町山岳博物館観覧料減免申請書

年 月 日

大町市教育委員会 殿

住 所

---

団体名

---

代表者

---

連絡先

---

下記のとおり博物館観覧料の減免を受けたいので申請いたします。

記

減免を必要 とする理由	
入館年月日	年 月 日
入館代表者 及入館人員	氏名 ほか 名
減免の額	

様式第2号（第7条関係）										
分類番号	公開・	公開・非公開		担当者	係長	課長補佐	館長	教育次長	教育長	可・否
	非公開区分	一部公開								
非公開（一部公開）とする部分・理由			保存区分							
			公開可能時期							
市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書										
年 月 日										
大町市教育委員会 殿										
				住所						
				団体名						
				代表者						
				連絡先						
下記のとおり博物館資料の特別利用（館内利用・館外利用）をしたいので申請いたします。										
記										
利用目的										
利用期間										
利用場所										
利用資料	品名（記号・番号）	備 考								
輸送方法				担当者						
その他										
参考事項										

様式第3号（第9条関係）

庶務・専門員・学芸員	係長	課長補佐	館長	教育次長	教育長	副市長	市長
主務							

市立大町山岳博物館資料寄贈・寄託書

年 月 日

大町市長  
大町市教育委員会教育長 殿

住所 \_\_\_\_\_  
 (団体名) \_\_\_\_\_  
 氏名 \_\_\_\_\_  
 電話番号 \_\_\_\_\_

下記のとおり資料を市立大町山岳博物館へ寄贈・寄託（該当に○）します。

記

資料	品名	数量
備考		

条件

- 1 寄贈・寄託を受けた博物館資料は、既存の収蔵資料と同一の取扱いをするものとする。
- 2 寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。
- 3 寄託を受けた博物館資料は、万が一の天災、その他不可抗力による滅失又は破損に対し、動産総合保険の対象物件とする。

### 3 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成17年7月7日  
教育委員会告示第8号

(趣旨)

第1 大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2 委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。

(組織)

第3 委員会は、委員10人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4 委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。

第5 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員が互選する。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(オブザーバー)

第6 委員会にオブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。

(会議)

第7 委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

(事務局)

第8 委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。

(補則)

第9 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この告示は、告示の日から施行する。

## VIII 市立大町山岳博物館の使命

平成 23 年 10 月

### 1 市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、今年で 60 周年を迎えた。昭和 24 年の設立趣旨には「地方文化の興隆」「信州文化の粹たる山岳文化の殿堂」「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民の博物館建設へ寄せた熱意と献身的な活動により山岳博物館が誕生した。

大町市は、山岳博物館創立 50 周年（平成 13 年）をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行った。

山岳博物館を誕生させた母なる北アルプスの雄大な姿は、将来、社会情勢がいかに変化し、科学技術が進歩しようとも、今と変わらず大町市民にとって常に身近な存在であり続けるであろう。

私たちは創立 60 周年を機に、あらためて設立当初の精神に立ち返り、「山岳文化都市宣言」の基本的理念を尊重しながら、これからの山岳博物館のあるべき姿を考えていく。

### 2 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりである。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めている。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人が共生する「山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図る。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することである。

#### (1) 大町市や周辺地域の人たちのために

- ①郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供する。
- ②この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所を提供する。
- ③郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意する。
- ④豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供する。
- ⑤博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にする。

#### (2) 大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために

- ①観光客・登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について、関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをする。
- ②「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となる。
- ③大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人が共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進める。

### 3 平成24年度からの市立大町山岳博物館の基本方針

#### (1) 調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研究機関と連携した調査や研究を推進する。

##### ①調査・研究の分野・範囲

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおく。

##### ②情報収集

調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用していただけるように、国内外から多くの情報を集める。

##### ③体制づくり

国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進める。

#### (2) 資料の収集・整理、保管の推進

北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進する。

##### ①収集・整理の推進

早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とする。

##### ②収集の範囲

山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集をおこなう。

##### ③保存・管理の推進

収集された資料は適正に管理された環境において保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とする。

#### (3) 調査研究の成果および収集資料の活用

調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進める。

##### ①調査・研究の成果活用

調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用する。

##### ②収集・保管の成果活用

収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用する。

##### ③保護・保全への貢献

調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てる。

##### ④体制づくり

山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくる。

#### (4) 教育普及活動の推進

地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすく興味を持てるように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

##### ①生涯教育・社会教育の推進

博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開する。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に満たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

##### ②学社連携・融合の推進

学校と博物館を結んだ事業を積極的に行い、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、関心を持つ

かけづくりをする。

### ③協働の推進

国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進する。

### (5) 付属園（動植物園）の充実

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらうという考え方を大切にする。

#### ①生体展示

生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。

#### ②教育普及への活用

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。

#### ③傷病鳥獣の救護

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。

#### ④希少種の保護

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。

#### ⑤施設整備の充実

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

# IX 施設

## 1 敷地面積

41,575.69 m<sup>2</sup>（都市公園としての開設面積）市有地：38,493.15 m<sup>2</sup>、民有地：3,082.54 m<sup>2</sup>

## 2 本館建物

(1) 構造：鉄筋コンクリート造 地上3階 地下1階

(2) 竣工：昭和57年5月31日竣工

(3) 面積：建築面積1,280.9 m<sup>2</sup> 延べ床面積2,207.04 m<sup>2</sup>

### (4) 床面積表

(単位：m<sup>2</sup>)

1階 1,244.9				2階 686.14			
名称	面積	名称	面積	名称	面積	名称	面積
1 展示室	290.0	14 準備室	9.1	26 展示室	290.0	31 研究室	34.8
2 収蔵庫	104.0	15 カフェ・ショップ <sup>o</sup>	74.2	27 ハッケージ室	14.9	32 資料庫	34.8
3 ハッケージ室	16.4	16 授乳室	6.7	28 展示室	113.6	33 図書室	34.8
4 燻蒸室	12.3	17 荷物置場	14.4	29 男子トイレ	18.2	34 資料庫	16.0
5 荷解作業室	41.3	18 ホール	116.9	30 収蔵庫	42.1	廊下階段等	86.9
6 特別展示室	70.4	19 多目的トイレ	6.5	3階 116.8			
7 EV機械室	6.0	20 女子トイレ	22.5	名称	面積	名称	面積
8 倉庫	3.5	21 書庫	16.7	35 展示室	94.6	階段	22.2
9 倉庫	3.0	22 更衣室	14.6	地階 159.2			
10 E.V	5.1	23 倉庫	8.8	名称	面積	名称	面積
11 講堂	110.2	24 事務室	69.6	36 機械室	118.8	階段	17.4
12 トイレ	8.1	25 休憩室	32.5	37 車庫	23.0		
13 倉庫	5.4	廊下、階段等	176.7				



### 3 付属施設

#### (1) 付属園（付属動植物園） ※本館隣

①施設の概要 敷地面積：39,875.92 m<sup>2</sup>

②建物の概要（建設年度順） ※B-8・10については放飼場の面積を除く

施設名・構造・建築面積(築年度)			施設名・構造・建築面積(築年度)			施設名・構造・建築面積(築年度)		
B-1	CB造	28.20(S38→S55 移設)	B-8	CB造	26.92(H1)	A-10	木造	52.00(H21)
B-2	CB造	14.79(S38→S55 移設)	B-9	CB造	34.83(H3,4)	A-11	木造	42.00(H27)
B-3	CB造	22.62(S53)	B-10	CB造	5.20(H3)	A-12	木造	33.00(H27)
B-4	パネル造	39.63(S54・55)	B-11	鉄骨造	67.65(H4)	A-13	木造	19.13(H27)
B-6	パネル造	18.99(S60,61)	B-12	鉄骨造	86.44(H7)	A-14	木造	146.16(H29)
B-7	CB造	46.50(S61)						



#### (2) 山岳図書資料館 ※本館隣

##### ①施設の概要

- ・構造・規模：鉄骨造 地上2階
- ・竣工・開館：平成24年3月2日竣工 平成24年4月20日開館
- ・各面積：敷地面積498.21 m<sup>2</sup> 建築面積59.96 m<sup>2</sup>  
延床面積117.45 m<sup>2</sup> (1階58.725 m<sup>2</sup>、2階58.725 m<sup>2</sup>)
- ・設備・備品：ハンドル式移動書架18基 固定式書架(各種)29基 ほか

## X 利用案内（令和6年3月31日現在）

- 1 開館時間 4～11月 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
11～3月 午前10時～午後4時（入館は午後3時30分まで）
- 2 休館日 毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始（12月29日～1月3日）  
※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館 7月・8月は無休
- 3 交通 公共機関 JR信濃大町駅から タクシー5分、徒歩25分  
車 長野自動車道安曇野ICから 40分  
（北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ28km）  
※博物館前に無料駐車場（普通車30台・大型バス5台収容）

4 観覧料

区分	大人	高校生	小・中学生
個人	450円	350円	200円
団体（30名様以上）	400円	300円	150円

- 5 ユニバーサルデザイン  
入口スロープ、入口階段手すり、玄関自動ドア、多目的トイレ、授乳室、車イス対応  
エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、アシスタントドッグ同伴可能

### 6 所在地および連絡先

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

（標高：766m、経緯：北緯36度30分、東経137度52分）

TEL：0261-22-0211/FAX：0261-21-2133

E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp

URL：https://www.omachi-sanpaku.com

**市立大町山岳博物館 令和5年度 年報**

2024(令和6)年7月25日発行

編集・発行 市立大町山岳博物館

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

TEL:0261-22-0211 / FAX:0261-21-2133